

日本法令講義

著者	秋月 佐都夫, 上林 敬次郎
出版者	和佛法律學校
雑誌名	和佛法律學校講義録
ページ	1-43
URL	http://hdl.handle.net/10114/6037

日本
法
例
完



0197

査表

日本法例講義

法律學士 本校講師 秋月左都夫先生口述
本校々友 上林敬次郎 君筆記

第一章 法律ノ公布實施期限廢止

(第一回)

法律ノ公布實施期限廢止

知ラサルノ法律ハ之ヲ遵守スルノ義務ナシ故ニ實施スルニ先タチ之ヲ知ラシメザル可ラズ之ヲ發布スルモ全國直チニ之ヲ知り得ベカラズ法例第一條ニ其期限ヲ定ム公布アリタル日ヨリ滿廿日ノ後始メテ遵守スヘキモノトス公布トハ何ノ謂ヒゾヤ法例草案ノ註ニ依レハ佛語「プロミルガーシヨン」ノ義ナリ憲法第六條公布ノ文字ノ英譯ヲ見ルモ「プロミルガーシヨン」トアリ佛蘭西民法第一條ニ曰ク「法律ハ佛蘭西共和國大統領ノナシタル「プロミルガーシヨン」公布ヲ以テ全國ニ執行セラルベキ力ヲ得ルモノトス而シテ公布ノ佛國ノ各所ニ於テ

(法例)

知り得ラルヘキ時ヨリ執行セラルヘキモノトス(即チ人民之ヲ遵守スルノ義務アリ)政府所在ノ縣内ニ於テハ公布ノ日ヨリ滿一日ノ后ハ之ヲ知りタルモノト推定ス云々

白耳義國ニモ那波烈翁法典行ハルレドモ同國ニ於テハ千八百四十五年二月廿八日ノ法律ヲ以テ第一條ヲ改メタリ全法第二條ニ曰ク「法律ハ之ヲ公布ノ后直ニ官報ニ掲載スベシ中略法律ハ」ビブリカーション「公示ノ日ヨリ滿十日ノ后ハ全王國ニ於テ遵守スヘキモノトス但シ法律ヲ以テ特別ニ其期限ヲ定メタルトキハ此限ニアラス」

佛語辭典ニハ「プロミルカーション」トハ儀式ヲ以テ法律ヲ公ケニスルコトアリ法律學者多クハ法律執行ノ命令ナリトノ定義ヲ下ス「メルレン」ハ國王ガ社會ニ向テ法律ノ存在ヲ証シ而シテ之ヲ執行ヲ命スコレヲ「プロミルカーション」ト云フト云ヘリ「ボードリ」ヲカンチネリ「ハ曰ク」プロミルカーション「ハ法律ノ出生証書ナリト云フヲ得ベシ之ニ依テ法律ノ存生ハ確實トナリ而シテ服從セシムル力ヲ得ルナリト

法律出生シタリ之ノ証書アリ然レドモ公衆ハ未ダ之ヲ知ル能ハズ故ニ白耳義法ハ之ヲ官報ニ掲載スルコトヲ命令官報ノ即日國中ニ頒布スル能ハザルヲ虞リテ尙ホ十日間實施ノ猶豫ヲ與フコノ十日ハ官報掲載ノ翌日ヨリ起算ス佛民第一條ニモ同シク實施猶豫期限ヲ示スト雖トモ公布ノ日ヲ知ラシムルノ方法ヲ設ケズ故ニ公衆ハ起算ノ日ヲ知ル能ハズ從テ遵守ノ義務ノ生スルノ日ヲ知ルニ由ナシ依テ特別法律ヲ以テ法律ヲ官報ニ掲載スヘキコトヲ制定ス我法律第一條モ佛民法第一條ト同シク二十日ヲ起算スルノ時ヲ示スモ公衆ヲシテ之ノ時ヲ知ラシムルノ方法ヲ示サズ別ニ之ヲ定ム即チ公文式十九年二月二十四日勅令第一號第十條ニ凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣到達日數ノ後七日ヲ以テ實施ノ期限トナス云々官報到達日數ハ十六年五月二十六日太政官布達ニ規定アリ法例實施ノ曉ハ府縣ノ遠近ニ從テ實施猶豫期限ニ長短ノ差アルコトナク法律カ官報ニ掲載セラレタル日ヨリ滿二十日ノ后日本全國ニ實施セラルベキモノナリ

(法例)

キハ二十日ノ期限ヲ短縮スルコトアルヘシ又種々ノ事情アリテ公布ヲ急ニシテ實施ヲ緩フスルヲ要スルコトアルベシ現ニコノ法例ヲ始メトシ民法商法等公布二十三年ニ在ルモ明年一月ヨリ始メテ實施セラル、モノナリ日本全國人民法律遵守ノ義務ノ生スルハ人民盡ク之ヲ知リタル筈ナレバナリ實際之ヲ知リタルヤ否ヤハ知ル可ラズト雖トモ法律上カク推定スルナリ人毎ニ之ヲ知ラシムルノ方法ヲ盡スハ實地出來可ラザルノコトナリ若シ又法律ヲ知ラザリシ者ハ之ヲ遵守スルノ義務ヲ免スルトキハ法律ハ有レトモ無キニ均シキノ結果ニ至ルベシ故ニ相當ノ期限ヲ定メコノ期限ニ至レバ人民一般之ヲ知リタルモノト推定ノ之ヲ遵守セシムルハ實ニ已ヲ得ザルニ出ツ然レドモ行政官ハ便宜ノ方法ヲ設ケテ以テ出來ルタケ法律ノ周知ヲ圖ルハ望マシキコトナリレ前ニ述ル如ク遵守猶豫期限ニ達スレバ法律ヲ知ラザリシ爲メ之ヲ免ル、ヲ得ス然レトモ一地方一般ニ實際之ヲ知り得ザルノ事情アリシナラハ如何此地方ノ人民ニモ尙ホ本條ヲ其儘適用ス可キヤ例ヘバ九州一圓若クハ對馬暴風雨ノ爲メ本島トノ交通絶ヘタル時ノ如キ又叛民若クハ外敵カ一地方ヲ占領シタル場

合ノ如キ是ナリ本條ノ推定容易ニ之ヲ動かス可キニアラスト雖トモ極メテ明了疑フ可ラザルノ反證アルモ尙ホ毫モ枉クル能ハザルモノニ非ズ前舉ノ場合ノ如キハ爭フ可カラザルノ反證アリ佛民法ニハ公布ハ知リ得、ヲ、時、ヨリ云云又公布ハ知ラレタリト推定ス等ノ文字アルヲ以テ立論ノ好根據アリ我法例ニハ是等ノ文字ナキモ苟モ推定トスル以上ハカク論斷スルヲ得ヘキナリコレ却テ立法者ノ意志ノ在ル所ナルベシ一地方ノ叛民又ハ外敵ニ占領セラレタル場合ニ於テハコノ地方ニハ暫ク主權及バサルナリ他ノ事故ノ爲メ法律ノ達スル能ハザル場合ニ於テモ同シク立法者ノ權柄ノ加ハ、ル能ハザルナリト云フヲ得ベシ一箇人ニモ反證ヲ許シ得ヘキ場合アリ例ヘバ民法證據編第六十條ニ定ムル所ノ人證最高額五十圓ヲ四十圓ニ改正シタリト假定セヨ違國若シハ船中ニ在ルモノ新法ヲ知ラズレテ五十圓ノ貸借ヲ證スルノ證書ヲ作ラザリシモ舊法ニ依リ尙ホ人證ヲ許ス可キナリ憲法上ノ議論ヲナス可キ場所柄ニハアラザレドモソノ第六條ハ本條ニ關係ア

ルヲ以テ少シク之ヲ講究セン其文ニ曰ク天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命スト公布ハ佛語ノ「プロミユルガーシヨ」ナル詞ニ當ルトスレバ公布ノ二字既ニ執行ヲ命スルノ意ヲ有ス唯ニ角別ニ執行ヲ命スルノ要ナキヲ知ル可シ左スレバ更ニ執行ヲ命スルヲ要セズ及執行ノ三字ハ之ヲ冗文ナリト云ハザルヲ得ズ之ヲ單ニ公クニスルノ意味ニシテ佛語ノ「ビユブリカーシヨ」ニ相當スルモノトセンカ公文式第十條ニ布告ノ文字アリタノ佛語ノ「ビユブリカーシヨ」ニ當ルコト疑ヲ容レズ加之ツノ第一條ニ公布ノ文字アリ公布ト布告ト同一ニアラザルコト明了ナリ又執行命令ハ應ニ布告ノ前ニ在ルヘキコトナルヲ以テ文字ノ順序上然ル可ラズ甚ダコノ條文ノ解釋ニ苦シム

憲法制定ニ當リ參照セラレタルベシト信スル所ノ歐洲二三國ノ憲法ノコレニ關係アルモノヲ譯シテ參考ニ供ス

獨乙帝國憲法第十七條 帝ハ法律ヲ公布プロミユルガーシヨ布告シビブリカーシヨ及ツノ執行ヲ監ス

普滿生王國憲法第四十五條 上略王ハ法律ヲ布告シ及ツノ執行ニ必要ナル

命令ヲ發ス

白耳義憲法第六十九條 王ハ法律ヲ制可シ及公布ス

伊太利憲法ハ白耳義憲法ニ同文

注意スヘキコトハ右列記ノ憲法皆ナ公布ス布告ストアリ公布セシム又ハ公布ヲ命スト云ハズ

イヅレヲ見ルモ執行ヲ命ストノ文ヲ見ズ或ハ獨帝國憲法ノ執行ヲ監ストノ意味ニ解シテハ如何ト思ヘトモコレ文法上許サルノ解釋ナリ又憲法有効以前ニ屬スルモノトハ雖モ法例民商法等ヲ布告セラルヘトキ朕……ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ……ヨリ施行スヘキコトヲ命ストハ上諭文アリ施行ト執行ノ差ハアレトモ同一義タルハ論スル迄モナシ又憲法實施前ニ出テ來リトハイヘ既ニ發布ノ後ニアリ故ラニ憲法ニ合ハザルコトヲセラレタリトモ思ハレズ茲ニ疑ヲ述ベ諸君講法ノ實ニモ供ント欲ス

法律ノ廢止 法律ヲ廢スルニハ法律ヲ以テセザル可ラズ法律ヲ制スルノ權アルモノ獨リ之ヲ廢スルノ權アリ

明文ヲ以テ廢スルアリ又默示ヲ以テスルアリ
一ノ法律ヲ以テ明カニ一ノ法律ヲ廢シタルトキハツノ効果ノ及フヘキ區域ハ
ツノ之ヲ廢スルト云フ文言ニ依テ定マルナリ例ヘバ何ノ法律ノ何條ヲ廢スル
ト云フトキハツノ條ノミ廢セラル、モナナリ
新舊二法相抵觸シテ並ヒ行ハル、コトヲ得サルトキハ舊法ノ新法ト並ヒ行ハ
レザル分ハ廢滅ニ歸ス之ヲ默示ノ廢止ト云フ此場合ニ於テハ廢止ノ効果ハ唯
並ヒ行ハレ得サル分ノミニ及ブ立法者一事ニ關シ前後同シカラザルノ意思ヲ
表スルトキハ後者ヲ採ルヘキハ當然ノコトナリ
法律ノ末段ニ此法律ニ抵觸スルノ法律ハ廢滅ニ屬ス云フ如キ條文ヲ附スル
コトアリコレ默示ノ廢止ノ原則ヲ明記シタルニ過キス殆ンドツノ用ヲ見ス
法律ツノ公布後ニ成リタル反對ノ習慣ニ依テ變更廢止セラルト得ベキ又
久シク執行セザレハ遵守セシムルノ力ヲ失フモノナリヤ憲法第三十七條ニ凡
テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ストアリ又同第六條ニ天皇ハ法律ヲ裁可
シ云々トアリ是ニ由テ視レハ議會議決シテ天皇裁可シ玉ハサレバ法律トナル

法律ノ効

ヲ得ズ左スレハ習慣ハ何程スキ經ルモ其儘ニテ法律トナルヲ得ザルナリ法律
ノ習慣ノ上ニ在ル疑フ可クズ習慣カ法律トナリ得ベキ國ニ於テハ習慣ヲ以テ
法律ヲ廢スルコトヲ得ベキナリ久シク適用セザルハ法律ハ廢滅ニ歸セサルハ
習慣ヲ以テ法律ヲ廢スルヲ得ズトノ原則ノ結果ナリ今一例ヲ舉ゲテ之ヲ説カ
ン日本民法離婚ニ關スル規則アリ然ルニ不思議ニモ離婚ヲナスコトナキニ至
リ久シクコレニ關スル法律ヲ用非ザリシニ四五十年ヲ經テ離婚ノ訴ヲ起シタ
リト仮定センニ久シクコレニ關スルノ法ヲ適用セサリシ爲メコレニ關スル規
則ヲ遵奉スルノ義務ナレト云フヲ得ス離婚セサルハ習慣ヲ以テ法律ヲ廢スル
ノ結果ニ至レバナリ以テ法律ヲ廢スルノ結果ニ至レバナリ
第二章 法律ノ効力
法律ノ効力ニ時ニ關スルモノト邦土ニ關スルモノ、二様アリ
(法例)

法律ノ時

效力ニ關スル

第一節 法律ノ時ニ關スル効力

第二條ニ「法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セズ」トアリコレ前條ニ就テ述ベタル所ノ法律ハツノ知ラレタルトキニ始メテ遵守セラルモノトス知ラザルノ規則ニ「循由スルコトハ出來ベカラザルコトナレハナリ」トノ原則ノ結果ニ過ギズ
既往ニコトハ人意ヲ以テ如何トモスル能ハザルナリ法律モ亦タ然リ然ルニ人ノ所爲ニシテ即時ニ完成スルモノモツノ法律ノ效果ノ生スルハ數日數月或ハ數年ノ后ニ在ルコトアリ例ヘバ人アリ隣家ノ塙壁ヲ破壊スツノコト即時ニ終ルモノノ結果トシテ損害ヲ償フノ義務生ス即チ負債生スコレヲ償却スルコトハ數日又ハ數月ノ后ニアリ得ベキナリ又例今日買賣ノ契約ヲナスツノ執行ハ即時ニナササルコトアリ契約ハ舊法ノ下ニ在テ之ヲナシ新法ノ時代ニ至ルマデ之ヲ執行セザリシナラバツノ效果ヲ定ムルニ於テ新舊二法中何レヲ適用スベキヤ他ニモコノ類ノ問題起ルベシコレ本條ノアル所以ナリ或ルコトヲナシタリ而シテツノ時ノ法律ニ依レバ有効ナルモ新法ニ依テ之ヲ無効トスレハ

コレ法律ヲ以テ既往ニ屬スル所爲ノ法律上ノ效果ヲ變更スルナリ然ルトキハ此ノ所爲ヨリ生スル所ノ權利ヲ害スルコトアリ若シコノ權利ヲ侵害スルトキハコノ法律ハ既往ニ遡ルノ効力ヲ有スト云フナリ國民分限親屬姻屬ノ關係ヨリ生シタル所ノ人權及ヒ財産上ノ諸權ニシテ既ニツノ資産中ニ入リツノ資産ヲ組成シ最早何人ノ意ヲ以テスルモ之ヲ奪フ能ハサルモノハ之ヲ既得權ト云フ故ニ未必權モ亦タ既得權ナリ未必條件ノ成否ハ當事者ノ意ヲ以テ之ヲ如何トモスル能ハス不定ナル未來ノ出來事ニ依ルモノナリ
現行ノ法律ニ據レハ或ル權利ヲ得ルノ望ミアルモ未タ以テ既得ノ權トナスヲ得ス期望ニシテ如何ニ之ヲ達スルニ近キモノト雖トモ未タツノ資産ニ入ラス故ニ隨意ニ之ヲ處分スルヲ得サル間ハ尙ホ期望タルヲ免レス而シテ期望ハ必ス常ニ達スヘキモノニアラス失望ノ恐れノ伴ハサル期望ハアラサルナリ故ニ法律ヲ以テ期望ヲ奪フモコレ既得ノ權ヲ侵害スルニ非ス例ヘハ現行ノ法律ニ據テ甲者アリ乙者死亡スレハツノ家督又ハ遺産ヲ相續スル者ナリ然ルニ法律變更ノ爲メ乙者ニ相續スルノ資格ヲ失フタリトセンニ是レ人ノ利益ヲ害シタ

リト云フヲ得ベキモ權利ヲ害シタリト云フヲ得ザルナリ
抑モ法律ハ國家ノ爲メニ設クルモノナリ故ニ國家ノ利益ヲ司ル所ノ立法者ハ
新法ノ直チニ全ク實行セラルハコトヲ欲スルハ勿論ナリ舊法ニ不可ナル所
レバコソ新タニ法律ヲ出シタルモノナリト云ハザルヲ得ザレバナリ幾分カ利
益ヲ害スルコトアルモ願ミルニ違アラザルナリ故ニ私益ハ公益ニ對シテ頭ヲ
下ケザル可ラス然レドモ公益ナレバトテ一個人ノ既ニ得タル權利ハ之ヲ重
セザル可ラス否ラサレバ大ニ一個人ノ身分財產ヲ擾亂シテ却テ還タ一國ノ利
益ヲモ害スルニ至ルローラン氏云ヘルコトアリ法律ヲ以テ國民ノ權利ヲ奪フ
トキハツノ國家存立スル能ハス然レドモ法律ハ國民ノ私益ヲモ如何トモスル
能ハザルトキハ均シク國家滅亡スルニ至ル云々ト權利ト純然タル利益ノ輕重
以テ見ル可シ

人ノ能力ハ之ヲ既得權ト云フヲ得可キヤ否ラス凡ソ社會ニ生存スルモノハ其
天然ノ自由ヲ全ク享有スル能ハス常ニ法律ヲ以テ幾分カ之ヲ縮減セラルハモ
ノナリ故ニ國民ノ享有シ得ヘキ自由ノ廣狹ハ素ヨリ一定不變ノモノニアラス

法律ヲ以テ何時ニテモ之ヲ伸縮スルヲ得ルモノナリ之ヲ換言スレハ自由ノ分
量ニ既得權ナキナリ故ニ能力ヲ規定スルニ於テ常ニ現行ノ法律ヲ適用スヘキ
ナリ例ヘハ舊法ニ依テ既ニ丁年ニ達シタルニ法律改マリテコノ法律ニ依レハ
未ダツノ年齢ニ達セス然ルトキハ再ヒ未丁年者ノ地位ニ復スルナリ禁治產ノ
コトニ付テモ同様ナリ

但シ法律ニ依リ能力ヲ有シタル時ニ或ル法律上ノコトヲ爲シ權利又ハ義務コ
レヨリ生シタリトセンニ此ノ權利義務ハ新法ニ依テ増減變更セラルヘキモノ
ニアラス例ヘバ新民法ニ依レバ男子ハ滿十七歳ニ達スレバ結婚スルコトヲ得
ルナリ今後法律改正セラレテ滿廿歳ヲ結婚年齢ト定メタリト假定センニ新民
法ノ未ダ改正セラレサル前ニ既ニ十七歳ニ達シタルモノノ結婚スルノ能力ヲ失
フヘキハ前ニ論スル所ノ如シ然レトモツノ間ニナシタル結婚ハ有効ノモノナ
リ又例ヘハ滿廿歳ヲ以テ丁年ト定メタルトキ廿歳ニ達シタルモノノ契約ヲナシ
タリ其後滿廿五歳ヲ以テ丁年ト定ムルモ既ニ爲シタル契約ノ成立效果ニ至リ
テハ毫モ變更スルコトナシ

契約其他法律上ノ行爲ニシテ繼續効果ヲ生スルモノアリ法律ヲ以テツノ公布以前ニ生シタル效果ヲ變更スルモ尙ホコノ法律ハ既往ニ遡ルノ効力ヲ有スト云フ可キナリ例ヘバ貸借利息ヲ規定スルノ法律出ヅツノ公布以前ノ利息ノミニ此ノ法律ヲ適用スルモ尙ホ既往ニ遡ルモノト云フ可シ況ンヤツノ以前ノ利息ニ及ブニ於テヤ貸借時効等ニモ此原則ヲ同様ニ應用スヘキナリ法律ハ既往ニ遡ルノ効力ヲ有セストノ原則ハ法理上ヨリ觀テ當サニ然ルヘキモノナリ又國家平靜人民安堵ノ上ヨリ考フルモ實ニ必要ノモノナリ若シコノ原則ニシテ全ク行ハレサラシメバ如何ニ完全ナル法律ノ生命財産ヲ保護スルモ決シテ頼ミトスルニ足ラサルナリ

コノ原則ノ貴キコト此ノ如シ然レトモコレ日本憲法ニ定ムルモノニアラス(予ガ知ル所ノ外國ニ於テモ皆然リ)コレ立法者ノ必ス奉セサル可ラサルノ原則ニアラスコレ法官カ法律ヲ執行スルニ方リテ遵フヘキノ原則タリ故ニ立法者ハ之ニ反スルノ條文ヲ設置スルモ憲法ヲ破ルニアラス然レトモコノ原則ニ背クハ雅應ニ已ムヲ得サルノ時ニ於テスヘキナリ立法者ハ決シテツノ自由ヲ濫用ス

可ラサルナリ佛朗西大革命時代ノ立法者コノ點ニ於テ小心ヲ缺キ正當ノ度ヲ超ヘタルノ責ハ辭ス能ハザルナリ今日禁セザルノ所爲モ明日ノ法律ヲ以テ之ヲ禁シ刑ハ昨日ノ所爲ニ及ブ此ノ如キ有様ナレバ生命財産安全ナル能ハス人心恟々其堵ニ安シセズトハコノ時代ノ有様ヲ云フモノナランコノ弊ヲ正サント欲シテ其後憲法ヲ以テ立法者ガツノ制定スル所ノ法律ノ効力ヲシテ既往ニ及バシムルコトヲ禁シタリ一時ノ大弊ヲ救済セン爲メニハ或ハ已ムヲ得サルコトナリシナラン然レトモコレ他ノ極端ニ走リタルモノト云フ可シ既往ヲ制スルノ法律ヲ設クルハ正義人道上時ニ或ハ已ムヲ得ザルコトアルヲ忘ル可ラザルナリ第二條ノ原則ノ適用ニ於テ亦例外ナキニアラス抑モ國家ノ目的ハ正道ヲ行フニ在リ而シテ法律ハ公義(ジュスティス)ノ文ニ顯ハレタルモノニシテ而シテツノ執行ヲ號令ス一國ヲ支配スル所ノ諸制度ハ正邪ヲ示スモノニ非ラサレバ乃チツノ正ナル者ヲ實行スルノ方法ナリ立法者ハ正義ノ頼テ以テ顯ハルハ所ノ最上官能ニシテ他ニ之ヲ制スルモノナシ立法者ハ亦タ國家ノ目的ヲ達スルノ最良制度最好手段ヲ判定スルノ全權ヲ掌握ス是故ニ法律ヲ以テコノ制度ハ正義

ニ反シ正道ニ背クトテ公示シ而シテ直ニ之ヲ全廢スヘキノ號令ヲ下タスヲ得此類ノ法律ハ嚴正ニ之ヲ執行シ毫モ違フ能ハザルモノトス獨リコノ制度ガ破壞セラルハノミナラスコレヨリ生スル所ノ權利モ俱ニ消滅ニ屬スルモノナリ既得ノ權モ顧ル所ニアラス立法者正道ニ反スルモノトシテ既ニコノ制度ヲ廢レタル上ハ一二ノ人ノ爲メニ存スルヲ許スヲ得ベキノ理ナシ明治五年十月二日布告第二百九十五號ニ云ク「人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ニ限リ其主人ノ存意ニ任セ虛使致候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買全様ノ所業ニ至リ以テ外ノコトニ付自今可爲嚴禁事」其末文ニ娼妓藝妓等年奉公人一切解放可致右ニ付テハ貸借訴訟總テ不取上候事トアルヲ以テコノ法律ノ効力ノ既往ニ遡ルハ疑ナキコトナリ立法者明文ヲ以テ之ヲ定メタルナリ然レトモ縱令ヒコノ明文ナキモコノ種ノ法律ハ既往ニ遡ルヲ得ヘキモノナリ同八年八月十四日布告第二百十八號ニ云ク「金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニ寄リ間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉」趣右ハ嚴禁ニ

法律不溯
及原則ノ
應用

候條云々コノ布告中ニハ明文ナキモ既往ニ溯ルノ効力ヲ有スルモノナリ故ニコノ布告以前ニ係ルノ人身書入モ無効トナルモノナリ我國維新ノ後封建ノ制度ヲ廢セラルハヤ大名士族等ガソノ文武ノ常職ヲ解カルハト同時ニソノ世祿其他コノ制度ニ伴フ所ノ諸權ヲ失フハ封建制度ヲ廢スルノ一令ニテ充分ナルノ理ナリ此ノ種ノ法律ハ常ニ正義ニ合フヤ又タ一制度廢止ノ爲メ既得權ヲ失フモノニハ相當ノ賠償ヲ與フヘキニアラズヤトノ問題ハコレ民法上ノコトニアラス立法及ヒ政治上ノ問題ナリ我國封建制度ヲ廢セラレシモ依然大名士族ニソノ世祿ノ幾分ヲ與ヘタリコレ政治上ノ都合ニ出テシモノナリ第二條ノ原則ノ應用コノ原則ノ應用ハ多端ナリ又困難ナリ故ニ新タニ法律ヲ定ムルニ當テハソノ應用ノ要則ヲ舉示スルハ望マシキコトナリ我法例理由書ニ云ク「此規則ヲ適用ニ付テハ實際無數ノ混雜ヲ生セリ佛國ニ於テハ裁判例ニ依リ法律ノ効力ヲ既往ニ及ホス場合ト否ラサル場合トヲ漸ク確定スルニ至リタレトモ我國ノ

法律ヲノ完全ナルヲ要スルヲ以テ此原則ノ適用ヲ規定スルハ必要ナル可シ且
 ヲ世人ハ此規則ヲ文字ノ如ク了解シ妙シク其利益ヲ害スルアレバ法律ノ効力
 ヲ既往ニ及ホスモノト謂ヒ非難駁撃シテ止マサルナリ下ノ草案ニハ應用ニ
 關スル條四アリ今ツノ一ヲモ存セス法律ハ甚ダ詳細ナラサル可ラサルモノニ
 アラス詳細ナルモ却テ弊ナキニアラスト雖トモ既ニ成文律ヲ制スル上ハ強テ
 簡短ヲ貴フヘキニアラス故ニ原則ニ於テ草案理由書ニ左祖スレトモ出來タル
 コトハ論スルモ詮ナシイサコノ原則ノ應用ヲ試ミン
 コレヲ應用スルニ當リ常ニ心頭ニ置クヘキコトハコノ法律ヲ其儘ニ適用スレ
 ハツノ結果ハコノ法律ノ公布以前ニ既ニ取得シタルノ權利ヲ侵害スルヤ否ヤ
 ヲ吟味スルコトナリ法律ハ天下ヲ橫行スルノ權柄アレトモ唯既得權ノ領内ニ
 ハ踏込ム能ハサルナリ既得權ノ力此ノ如シト雖トモ公義正道ヲ直接ノ目的
 スル法律ニハ勝ツ能ハサルナリ人身賣買ヲ禁スル法律ノ如キ是レナリ

(第三回)

人ノ身分又ハ能力ニ關スル法律、資産ニ關スル法律證據方式諸般ノ手續等ニ關

身分又ハ
 能力ニ關
 スル法
 身分ニ關
 スル法

スル法律ニ付テ序ヲ追テ之ヲ研究セン

身分又ハ能力ニ關スル法

身分ニ關スルノ法舊法ニ從テ取得シタルノ身分ハ其后ノ法律ヲ以テコレヲ
 取得スルノ條件ヲ變更スルコトアルモ之ニ依テ失フコトナシ例ヘハ歸化結婚
 養子嫡出子トナスコト、私生子ノ認知等ハコノコトヲナシタル時ノ法律ニ依テ
 支配セララル、モノナリ故ニツノ後ノ法律ハ之ヲ左右スル能ハサルナリ但シ新
 法公布以前ニ身分ヲ取得シ了リタルニ非レバ新法ノ支配ニ屬ス例ヘバ歸化セ
 シト欲スルモノ法律ニ從ヒ其手續ヲ終リ未タ許ヲ得サル前ニ法律ノ改正アリ
 タル場合又結婚ニ關スル人事編第四十三條以下ノ手續ヲナシ未タ結婚ノ成立
 ニ至ラザルトキ法律ノ改マリタル場合等ノ如キ是レナリ
 私生子ヲ認知スルコトヲ許スノ法アリタル時代ニ生レタル私生子ハ爾後法律
 ヲ以テ之ヲ禁スルモノコノ私生子ハ既ニ認知セラル、ノ權ヲ得タルモノニシテ
 コノ權ハツノ身分ノ一部分ヲ成スモノナリトノ說アレトモコレ誤謬ナリ
 離婚ニ關スル法律ハ前述ノ公ノ秩序ニ關スルモノニシテ第二條ノ原則ノ及フ

(法 例)

能力ニ關スルノ法

財產ニ關スルノ契約

能ハサルノ法律ニ屬ス故ニ結婚ヲナストキノ法律ノ如何ヲ問ハス離婚ヲ許スモ許サハルモ總テ新法ヲ適用スヘキナリ
能力ニ關スルノ法。能力ハ權ニアラス故ニ法律ニ依テ既ニ能力ヲ有スルモ既得ノ權ニアラサルナリ法律ハ常ニ能力ノ廣狹ヲ變スルヲ得ル所以ノ理由ハ既ニ前段ニ述ヘシ所ナリ今尙ホ他ニツノ理由アルコトヲ述ヘン蓋シ能力ニ關スル法律ノ目的ハ概シテツノ人ヲ保護スルニ在リ然ルニコレニ關スルノ法律ヲ改正スルハ舊法ニ定ムル所ノ保護ノ方法不充分ナレバナリ人民ハ法律ノ保護ヲ受ケサルノ權ヲ取得シタリト云フヲ得ルノ理アラシヤ加之此種ノ法律ハ公益ヲ主トスルモノナリ私益ハ公益ニ勝ツ能ハサルナリ遺言結婚ノ能力夫ノ權又妻タルモノ、能力等ニ關スルノ法皆ナ新法ニ依ルモノナリ但シ能力ヲ有スル時代ニ於テ既ニ爲シタルコトヨリ生シタル權利ハ之ヲ侵害スルヲ得ス
財產ニ關スルノ法。財產ニ關スルノ契約ハ成立サヘスレハ直ニコレヨリ權利ノ生スルモノナリコノ權利ハ契約成立ノ條件ヲ變更スル

所ノ新法ノ爲メニ侵害セラル可ラス例ヘバ民法財產篇第三百二十一條第二項ニ「相續ニテ受ク可キ財產ヲ讓渡ス合意ハ其相續ヲ遺ス可キ人ノ承諾アリト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ス自由ヲ常則トナシ制限ヲ例外トナスノ原則ニ依レバ民法實施以前ハ未タ受ケサルノ相續ニ付テノ契約モ有効ノモノナリト云ハサルヲ得ズ左スレバ民法實施ニ至ルト雖トモツノ以前ニナシタルカハル契約ヲ無効トナスヲ得サルナリ又例ヘバ目下贈與ハ要式ノ契約ニ非ズ新民法ニ依レバ(第三百五十條普通合意ニ必要ナル條件ノ外公正證書ヲ要スルナリ即チ要式ノ契約ナリ民法實施以前ニ係ル贈與ノ成立不成立ノ訴訟カソノ實施後ニ起ルコトアルモ之ヲ證スルノ公正證書ナキカ爲メ無効ナリトナスヲ得ザルナリ契約ノ効果モ同シクコレヲナシタル時ノ法律ノ支配ヲ受クルモノナリ契約ノ成立セシトキハコレヨリ生スルノ權利モ既ニ取得シタルナリ又當事者ハ契約ヲナストキノ法ニ從ヒ契約ヨリ生スル所ノ義務ニ服從スルノ意ナリシナリ未タ知ラザルノ法律ニ規定スル義務ニ服從スルハ出來可ラザルコトナリ法律ヲ以テ契約ノ効果即チ相互ノ權利義務ヲ規定スル概ネ當事者ヲシテ契約中ニ一

々之ヲ規定スルノ煩ヲ避ケシメンガ爲メナリ故ニ當事者ハ契約ヲ以テ法律ニ規定スル所ノ効力ヲ變更増減スルヲ得ルナリ然ラバ契約中別ニ規定セザルハ一ニ法律ニ依ルノ意ナリト推定セサル可ラズ法律ハ公ノ秩序ニ關スルノ場合ハ格別ツノ他ノ場合ニ於テハ契約ヲ以テ定メタルコトヲ恣ニ左右スル能ハサルモノトス故ニ契約ノ効果ハツノ權利ニ關スルモノト義務ニ關スルモノトヲ間ハス總テ契約ヲ爲シタル時ノ法律ノ規定スル所ニ依ル可キナリ若シ新法ヲ以テ之ヲ變更スルトキハ債務者ノ義務ヲ重クスルニアラハ乃チ債權者ノ權利ヲ侵害スルノ結果ヲ見ルヤ必セリ

契約ノ廢除^{〇〇}モ亦舊法ニ依ル故ニ舊法ニ規定シタル解除ノ或ル原因ヲ新法ヲ以テ之ヲ廢スルコトアルモ尙舊法ヲ援用シテコノ解除ヲ求ムルヲ得ルナリ若シ之ニ反シテ新法ヲ以テ新タニ解除ノ原因ヲ設クルモ之ヲ引テ舊法時代ノ契約ノ解除ヲ求ムルヲ得サルナリ契約解除ノコトヲ法律ヲ以テ規定スルハツノ效果ニ於ケルカ如ク概チ當事者ノ明約スルノ煩ヲ省カンガ爲メナリ財產取得編第九十三條ニ依レバ無期年金權契約ノ債務者カ二ケ年間年金ノ辨

相續

濟ヲ缺キタルトキハ元金辨償ノ義務アリ即チ年金契約ノ債權者ハ廢除ヲ請求スルヲ得ルモノナリ

若シコノ條ヲ改メテ債權者ハコノ場合ニ於テ年金契約ノ廢除ヲ求ムルヲ得サルモノトスルモ舊法時代ニナシタル契約ナレバ尙ホコノ條ヲ援用スルヲ得ルナリ

前述契約ノ効果ニ關スル原則ハ准契約犯罪准犯罪財產編第三百六十一條以下參觀ヨリ生スル所ノ權利義務ニモ適用スルモノトス他人ノ過失ノ爲メニ損害ヲ受ケタル者ハツノコトノアリタルトキ直ニ損害ヲ償ハシムルノ權利ヲ得タルモノナリ

相續 被相續人カ未タ死亡又ハ隱居セサル限りハ相續人ハ未タ相續ノ上ニ權利ヲ取得セサルナリツレ迄ハ唯期望ヲ有スルニ過キス故ニツノ以前相續ノ歸屬ヲ規定スルノ法ヲ變更シタルトキハ相續人ハ舊法ヲ援引シテツノ權利ヲ主張スルヲ得サルナリ若シ之ニ反シテツノ法律ノ改正ハ被相續人ノ死亡又ハ隱居ノ後ニ係ルトキハ相續人ノ權利ハ舊法ニ依テ定マルモノナリ故ニ相續權ノ

遺贈

コトニ付テハ常ニ被相続人ノ死亡又ハ隱居ノ時ノ法律ヲ適用スルモノトス
 遺贈ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルノ權ヲ有ス(財産取得編第三百九十九條)
 遺言者ノ死亡ニ依テ始テ成立確定スルモノナリ受遺者ツノ以前ニ遺贈財産
 ニ權利ヲ有スルコトナシ故ニ遺言者及ヒ受遺者ノ能力ハ遺言者ノ死亡ノ時ノ
 法ニ依ルモノナリ能力ハ既得權ニ非ラサレトモ其時有所ノ能力ヲ用井テ
 ナシタルコトヨリ生シタルノ權利ハ新法ヲ以テ之ヲ侵害ス可ラサルコトハ前
 ニ述ヘシ所ナリ然ルニ遺言者ノ死亡前ハ受遺者ノ權未タ生ゼサルヲ以テ新法ノ
 規定スル所ニ從ハサル可ラス遺言者ノ能力ハツノ遺言ヲナス時ニ於テ必要ナ
 ルノミナラス亦ツノ死亡ノ時ニモナカル可ラサルコトヲ忘ル可ラス
 遺言中ノ條款ノ有効無効ニ付テモ亦タ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用スルモ
 ノナリ
 遺贈ヲナスコトヲ得ルノ財産ノ部分ノコトニ付テハ既ニ遺言ヲナシタル後ニ
 法律ヲ以テ之ヲ増シ或ハ減シ又ハ之ヲ全廢スルコトアルモ常ニ遺言者死亡ノ
 時ノ法律ヲ適用スルモノナリ

物權

方式訴訟
手續強制制

然リト雖トモ遺言ヲ以テ遺贈シ得ル部分ヲ或ル人ニ與ハタルニ新法ヲ以テコ
 ノ部分ヲ増シタルコトアリト假定セシニ此場合ニ於テハ實際遺言者ノ意ノ所
 在ヲ吟味セサル可ラス遺言者ハ法律ノ許ス限リハ之ヲ與フルノ意ニアラス
 テ唯ニ舊法ノ定メタル遺贈シ得ル部分ノミヲ與フルノ意ニハアラサリシヤ
 問フヲ要ス但シコレ遺言解釋ノコトニシテ法律ノ時ニ關スル効力如何ノ問題
 ニアラス(財産取得篇第三百八十三條、八十六條參觀)
 物權 所有權地役權抵當先取特權等ノ物權ノ成立授受ニ關スル法ハツノコトノ
 アリタルトキノモノヲ適用ス先占添附ニ關スル法モコノ部類ニ屬ス(財産取得
 篇第二條以下參觀)
 新規ノ法定抵當又ハ先取特權ヲ創制スルノ法律ハ既成ノ行爲ニ適用セス唯コ
 ノ法律公布以後ノモノニ適用ス新法ヲ以テ既得ノ順位ヲ奪フヲ得サルナリ
 但シ抵當ノ保存及使用ノ爲メ新法ノ命スル所ノ條件及ヒ方式手續ハコノ法以
 前ニ成立シタルモノニモ適用ス毫モ既得權ヲ侵害スルコトナシ

方式訴訟手續強制執行証據ノ方法ニ關スル法

(法例)

行爲ノ方式ハ總テ行爲ノアリタル時ノ法律ニ合フトキハ有効ナリ未ダ法律ノ定メサルノ方式ヲ履ムハ出來可カラサルノコトナリ
訴訟手續ニ付テモ訴訟ヲナストキノ法ニ從フ裁判所構成ニ關スルモノモ亦然リ
既得權ヲ害スト云フヲ得ズ況ンヤコレ等ニ關スル法律ハ公益ヲ主トスルモノナルニ於テヲヤ
強制執行モ現行ノ法ニ依テ行フヘシ訴訟手續ニ付テ述ブル所ノ理由ニ全シ
證據ヲ立ツルノ方法ハ證明セント欲スルノ事ヲナシタルトキノ法律ニ從フ未
來ノ法律カ制定スル所ノ方法ニ從テ證據ヲ立ツルコトハ出來ヘカラザルコト
ナリ證據編六十條ニ依レバ五十圓以上ノコトヲ證スルニハ書付ノ證據ヲ要ス
目下此ノ如キ制限ナシ然ルニ民法實施ノ日ニ至リ三四年前ニナシタル五十圓
以上ノ貸借ニコノ條ヲ適用スルハ實ニ無理ノ甚シキナリ抑既得權ヲ侵害ス可
ラサルヲ云フモ若シコレヲ證明スルノ方法ニ付テ當時ノ法律ヲ適用セザルト
キハ既得權ノ保護モ有名無實ナルベキノミ
時効ハ我新民法ニ依レバ證據ノ一方法ニ屬ス(證據編八十九條ヲ見ル可シ)那破

第二節 一個人ノ契約ヲナシ及ビソノ財産ヲ

(法例)

烈翁法典ニ依レバコレ財産ヲ取得シ又ハ義務ヲ免ル、ノ方法ナリ(ソノ第二百十九條ヲ見)立法上ノ議論ハ暫ク措キ時効ヲ證據ノ方法トスルモ通常證據方法ニ異ナリコレ法律上ノ推定ナリ(八十九條法律ノ効力不及既往ナル原則ノ應用如何既ニ完成シタル時効ハソノ取得タルト免責タルト問ハスコレ既得權ナリ故ニソノ完成ノ后ニ至リ時効ノ條件ヲ改ムルノ法律出テ而シテコレニ依レバ未ダ完成スルヲ得ザルモノナルモ最早コレニ因テ動かサル、コトナシ然レハ未ダ完成ニ至ラスシテ尙ホ進行中ナル時効ハ將サニ完成ニ至ラントシタルモノト雖トモ新法ニ定ムル所ノ條件ヲ具フルヲ要ス未ダ既得ノ權ナク唯期望ニ止リシヲ以テナリ
舊法ノ時効ヲ以テ取得スルヲ許サザリシ財産ヲ新法ヲ以テ之ヲ許シ又之ニ反シテ以前時効ヲ以テ得タルヘキ財産ヲ新法ヲ以テ之ヲ許サルコトアルヘシ但新法ノ出テタルトキ既ニ完成シタル効力ハ之ヲ如何トモスル能ハサルナリ

處分スルノ自由ニ關スル法律ノ効力

二十八

第二條ヨリ全第十五條ニ飛ブツノ譯ハツノ間ノ條ハ内外法律ノ抵觸ヲ規定スルモノニシテ即チ國際私法ナリ故ニコレハ一ト東ニシテ後ニマリス混雜ヲ避クルノ便アリト思ヘルナリ

第十五條ニ云ク「公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ抵觸シ又ハ其適用ヲ免レントスル合意又ハ行爲ハ不成立トス」人々意ノ儘ニ契約ヲ結ビ又ハ他ノ行爲ヲナスニ勝手ナリト雖トモ公益故ニコレヲ害スルコトハ出來サルナリ故ニコレニ關スルノ法律ハ契約ヲ以テ之ニ背クヲ得ス憲法コレニ附屬スル施政ノ大綱ヲ規定スル所ノ法律行政ニ關スル法律刑法及ヒ治安ニ關スル法律等コノ部類ニ屬ス

民法中ニモ亦政治道德其他一國ノ利害ニ關スルノ條アリ立法者ハ一ニコレヲ明示セス之ヲ定ムルハ法律學又裁判例ニ屬スルコトナリ然レトモコレ民法講義擔任ノ諸師ニツノ場所々々ニテ示サルヘキコトニシテ今茲ニ一々舉示スルヲ要セサルナリ

(第四回)

然レトモ茲ニツノ總則ヲ説クハ不用ニアラサルヘシ

公ノ秩序ト云ヒ善良ノ風俗ト云フ孰レモ耳新シキ言ヒ様ニシテ一讀便チ外國ノ熟語ノ反譯タルヲ知ルベシ法例第十五條ハ佛朗西民法前加篇第六條ヨリ來リシモノタルコト疑フ可ラサルナリ佛國法學者中ニモ公ノ秩序善良ノ風俗ノ定義ニ付テハ種々ノ説アリコノコトタル人々ノ感情ニ問フヘキコトニシテ定義ヲ下シ得ヘキコトニアラストノ説ヲナスモノアルニ至ル然レトモカク云ヒ去テ定義ヲ下スコトヲ務メザルハ法律學者ノ本分トシテ残念ナルコトナリ今順ヲ追テツノ意義ヲ説カン

公ノ秩序ニ關スル法律

公ノ秩序トハ如何ツノ定義ノ吟味ハ之ヲ措キ法律上公益ト云フ義ナリ一國ノ公益ヲ謀ルノ法律ハ即チ公ノ秩序ニ關スル法律ナリ人或ハ云ハン抑法律ヲ設クルハ公益ノ爲メニ非シテ何ゾ然ラバ何レノ法律カ公ノ秩序ニ關スルノ法律ニアラザラント誠ニ然リ公益私益固ト分離シ得ヘキモノニアラズ國ヲ成ス

(法例)

二十九

公ノ秩序ニ關スル法律

所ノ人民各個ノ利益ヲ害シテ而カモ一國ノ公益ヲ謀ラント欲スルハ出來ヘキコトニアラス私益集リテ公益トナルモノナレハナリ然レトモ立法者法ヲ制スルニ當リツノ直接ニ着眼スル所一般ノ利害ニ在テ人民銘々ノ利害ハ暫ク第二段ニ置クコトアリ即チ一般ノ利ヲ思フテ少數人民ノ利害ヲ顧ミルニ違アラザルコトアリ之ヲ公ノ秩序ニ關スル法律ト云フ若レ之ニ反シテ直接ノ目的ハ人民個々ノ利益ニ在ルトキハコレヲ私益ニ關スルノ法律ト云フ既ニ述ベシ如ク所謂公法ナルモノハ皆ナ公ノ秩序ニ關スル法律ニシテ之ニ抵觸シ又ハツノ適用ヲ免レントスル合意ハ概シテ不成立トス例ヘハ甲某乙某ト約シテ云ク若シ議員選舉ニ當リ我ニ投票セハ金若干ヲ與フベシトコノ投票ノ有効無効ヲ定ムルハ撰舉法ノ知ル所ニシテ茲ニ論スベキニアラス民法上ニテコノ約束ハ成立タザルナリ撰舉法ニ抵觸スルノ約束ナレバナリ又例ヘハ甲某所得稅ヲ免レン爲メ其所有田地ノ幾分ヲ乙某所有ノ表向キトシツノ報酬トシテ毎年金若干ヲ乙某ニ與フルノ約ヲナスコレ不成立ノ約束ナリ所得稅法ノ適用ヲ免レントスルノ約束ナレバナリ又例ヘハ地租ハ地主ノ納ムヘキモノナリ然ルニ土地賃借ノ契約

ヲ以テ借地人ノ負擔トセリト假定センニコノ契約ハ政府ニ對シテハ不成立ニシテ収稅官ハ地主ヲシテ納稅セシムルヲ得ルナリ但シ到底何レノ負擔ニ歸スヘキヤハ双方相談ノ上勝手ニ規定スルヲ得ルハ勿論ナリ

裁判管轄ヲ規定スルノ法モ亦タ公ノ秩序ニ關スルノ法ナリ故ニツノ法ニ反シテ始審ヲ經スシテ控訴ヲ受クヘキ裁判所ニ直ニ訴訟ヲ提起セントノ約束ヲナスヲ得ズ又例ヘバ金額百圓以上ノ訴訟ヲ區裁判所ニ提起スルノ約束ヲナスヲ得ズ裁判所構成法十四條參觀是等ノ契約ハ法例第十五條ニ依リ皆ナ不成立ナリ然レトモ當事者ノ約束ヲ以テ裁判管轄規則ニ依ラサルヲ得ル場合アリ被告ノ住所ノ裁判所ニ訴訟ヲ提起スルヲ通則トス然レトモ當事者ハ約束ヲ以テ他ノ裁判所ヲ撰フヲ得ルナリ(民事訴訟法第廿九條以下參觀)何トナレハ此管轄規則ハ被告人ノ利益ヲ思フテ設ケタルモノナレハ被告人ハ必スシモ之ニ從フヲ要セズ若シ必ス之ニ從ハシメントスルトキハツノ利益ヲ思テ却テ之ヲ害スルコトアルヘシコレ豈立法者ノ意ナランヤ

民法商法ハ概言スレハ私益ヲ重モナル目的トスルノ法律ナリ故ニ之ニ反スル

ノ合意及ヒ行爲ハ概シテ有効ナリ契約ニ關スル條文ノ如キ多ク一個人ノ便利ヲ謀リテ定メタル者ナリ如何ナル便利ナルコトモ之ヲ強ユルトキハ却テ不便トナルコトアリ例ヘハ雙務契約ハ一方ノ者之ヲ履行セサルトキハ他ノ一方ハ之ヲ解除ヲ求ムルヲ得ルモノナリ財四百廿一條然レトモコレ當事者ノ意ヲ推測シテ定メタルモノナレハ當事者之ニ反スルノ約束ヲナスヲ得ルナリ財産編第四百廿二條ニ之ヲ明言スル故最モ明カナリ但シコノ條ナキモ當事者ノコノ權ヲ有スルハ疑フ可ラザルコトナリ財産ハ契約ノ目的物ニシテ人民契約ニ就テ有スル自由ノ區域ハ極テ廣キモノナリ故ニ財産ニ關スル法ニ反スルノ契約又ハ行爲ヲナスノ自由アルハ原則ニシテ之ヲ制限スルハ例外ナリツノ一二ノ例ヲ舉ゲンニ共有者ハ常ニツノ共有財産ノ分割ヲ要求スルノ權アリ之ニ反スルノ契約ハツノ効ナシ財三十九條又法定相続人アルトキハ財産半額以上ノ遺贈ヲナスヲ得ス財取三百八十三條又質物ハ裁判上ノ評價ナクシテ債權者ノ有ニ歸スルヲ得ズコレニ反スルノ契約ハ無効ナリ(債權第三百十三條百三十條參觀)

人ノ身分能力ニ關スル法ハ公ノ秩序ニ關スルノ法律中ニ包容セシムルヲ得ヘ

善良ノ風俗ニ關スル法律

キモ我法例ハ之ヲ第十六條ニ特記シ且ツ第十五條ノ制裁ト少異アリ第十五條ノ制裁ハ不成立ニシテ第十六條ノ者ハ無効ナリ(財産編第三百四條乃至第三百廿六條及同第五百四十四條乃至第五百五十九條ヲ視テ以テ其差異ヲ知ルヘシ)例ヘハ親權ハ父之ヲ行フ人百四十九條夫婦間ノ約束ヲ以テ母之ヲ行フコトト定ムルヲ得ズ又親子間ノ約束ヲ以テ子ノ自治產ヲ許スヲ得ズ是等ノ約束ハ皆ナ無効ナリツノ有効ナラサルコト明文ナシト雖トモ法例第十六條ニ依テカク判定スルヲ得ルナリコレ皆ナ身分能力ヲ規定スルノ法律ナレバナリ

善良ノ風俗ニ關スル法律

善良ノ風俗ハ公ノ秩序中ノモノナリ故ニ公ノ秩序ト云ヘバ善良ノ風俗ヲ特舉スルニ及バザルナリ佛國法ニハ唯法文ヲシテ一層明瞭ナラシメン爲メ附記シタルモノナリトノ説アリ我國文章上亦タ同様ノ入用アリシヤ否ヤハ知ラザレドモ注意迄ニ一言ノ述フベキコトアリ

風俗ハ佛語ニ「ミールス」ヲ反譯シタルコト疑ナシコノ語風俗ノ意味ヲ有スルコトアレドモ又時ニハ外ニ顯ハレタル行狀ノ謂ヒナリ風俗ハ一國或ハ一地方一

般ニ就テ云フモノニシテ即チ個人行狀ヲ總括シタルノ稱ナリ佛國法ニテハ事
 個人行狀ノ意味ニ用非タリト解スル方文章上穩當ナルモ法律ハ道義ノ著書
 ニアラザレバ一人ノ行狀中唯社會ヲ紊亂スルニ足ルヘキモノヲ制止セントノ
 主意タル論ヲ俟タス故ニ法律ノ支配スル所ノ風習ハソノ一般ニ係ルモノニ限
 レリ左スレハ風俗ナル語ヲ用ユルハ至當ナリ

善良ノ風俗ニ關スル法律ハ人ヲシテ善キコトノ風習ヲ守ラシメ而シテ惡シキ
 コトノ風習ニ染ムコトヲ避ケシムルノ法律ナリ刑法ノ如キ即チコノ法律ナリ
 父母若クハ後見人ニシテ拾六歳ニ滿タサルノ婦女ヲシテ賣淫ノ業ヲナサシムル
 コトヲ約諾スルコトハ刑法第三百五十二條ノ犯罪ニ屬スヘシ故ニソノ不成立
 タルコト論ヲ俟タサルナリ若シ滿十六年以上ノ婦女自ラ若干ノ金額ヲ得テ賣淫
 ノ業ヲナサンコトヲ約シタルトキハ如何コレ刑法ノ禁スル所ニアラス然レトモ
 民法上之ヲ有効トシテ司法權ハ之ニソノ保護ヲ與ヘテ可ナリヤ法律ノ之ヲ禁
 スルナシ故ニコノコトタル善良ノ風俗ヲ害スルモノタル勿論ナレトモ善良ノ
 風俗ニ關スル法律ハ之ヲ犯スコトナシ故ニ法例第十五條ニ依テ之ヲ不成立ノ

合意トナスヲ得サルナリ財產篇第三百四條ニ真實且合法ノ原因ヲ合意成立ノ條
 件中ニ算入ス合法ノ原因トハ法律ノ許ス原因ノ謂ヒナルベキヤ法律ノ許サハ
 ルコトハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スルモノナリ公ノ秩序ニ關スル法律ヲ
 犯スノ合意ニ付テハ法例第十五條ノ在ルアリ重テ之ニ付テ云々スルノ用アル
 ヲ見ス寧ロ入用アル方ニ法律ヲ解釋スルコト法文解釋ノ法ナリ佛國民法千百三
 十三條ニ通例不合法又ハ不適法ト譯スル語ヲ解釋シテ曰ク契約ノ原因ハ法律
 ヲ以テ禁止シタルコト若クハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノ之ヲ不
 合法ノ原因ト云フ我立法者モ此ノ意味ヲ以テ合法ナル語ヲ用非タルモノナルヘ
 シト思ハルカク解釋スルトキハ善良ニ關スル法律ニ觸ルハコトナクトモ苟ク
 モ善良ノ風俗ニ反スルヲ以テ前述ノ合意ハ財產編第三百四條ニ依テ不成立ナ
 リ

何ニ依テ風俗ノ良否ヲ判斷スヘキヤ即チ善良風俗ノ定義ハ如何道義ニ合フ
 モノハ良之ニ合ハサルモノハ否ラスコレ疑フ可ラサルノ點ナリ然ルニ今日道
 義ニ就テ一定ノ說ナシ敎法ニモ種々アリ儒アリ佛アリ基敎アリ儒佛基又數派

ニ分ル所謂ル哲學ナルモノニ依ランカソノ派亦數十ニ下ラス各ソノ派ノ説ク
所ヲ固ク執テ他ハ妄見ナリトシテ之ヲ排撃シ殆ント氷炭相容レサルノ有様ナ
リ裁判官如何ナル規矩ヲ用井テ以テ事ノ良風俗ニ合スルト否ヤト判知スルヲ
得ヘキヤ裁判官ノ依ルヘキ一定ノ規則ナキヤ曰ク有リ道義ハ一定不變ノモノ
ナリ道義ハ進歩スヘキモノナリ時代ニ從テ道義變スト云フハ謬ナリ道義進歩
スルニアラス人ノ智識ノ進歩スルナリ然レトモ知ラサルモノハ無キカ如シ道
義モ進歩改良ヲ經ヘキモノナリト云フモ實際已ムヲ得サルコトナリ故ニ暫ク
一步ヲ讓テ道義モ變スヘキモノナリトスルモ一時代ニハソノ道義アリコレヲ
以テ良風俗惡風俗ヲ判斷スルノ定規トナスヘシ何ヲ以テソノ時ノ道義ハ茲ニ
在リト云フヲ得ヘキヤ人々具有スル所ノ良心ノ判斷ニ從フ可シ六ヶシク理屈
ヲ云ヘハ良心ノ命スル所良心ノ制止スル所ハ漠然把握ス可ラサルモノ、如シ
ト雖トモ何レノ時代ニ於テモ人々ノ共ニ認ムル所ノ道義ナルモノ有テ存ス常
ニ一二ノ異説ヲ唱フル者ナキニ非サルモコレハ顧ミルニ足ラサルナリコノ共
ニ認メ一般ニ奉スル所ノ道義ナルモノハ人々ソノ良心ノ指示ニ因テ之ヲ知ル

ソレ程ノ良心ヲ具ヘサルノ法官ハ之ヲ良法官ト云フヲ得ス法官ノ撰ミヲ慎マ
サル可ラサル所以ノ一ナリ

(第五回)

法律ノ適

第三章 法律ノ適用

裁判官ハ規則ニ從テ提起スル所ノ訴訟ハ盡ク之ヲ裁判セサル可ラス法律明瞭
ナラサルノ故ヲ以テ裁判ヲ拒ムヲ得スコレ至當ノコトナリ法律時ニ或ハ明瞭
ナラスコレ裁判官ヲ設クル所以ノ一ナリ裁判官ヲシテソノ終身研究スル所ノ
學問ヲ應用シテ以テ法律ヲ解釋セシメント欲スルナリ法律ニシテ明々瞭々一
点ノ疑ナカラシメハ殆ント裁判官ノ用キニ至ラン訴訟ノ起ルハ多クハ法文
ノ意味ヲ確知スル能ハサルニ依ル法律ニ據テ訴訟ヲ斷スコレ裁判官ノ職務ナ
リ法文ノ明確ナラサルノ故ヲ以テ裁判スルコトヲ拒ムトキハ即チ司法權ナキ
ナリ國家一日司法權ナキトキハ國家ノ秩序ヲ保ツ能ハサルナリ爭ヲ斷スルニ
應ニ如何ナル方法ニ依ルヘキヤ當事者ノ自カラ裁判ヲ下スニ任センカコレ彼

等ノ懲ヲ肆ニセシムルナリ即チ暴力ヲ逞フセシムルナリ一國ノ紀綱忽チ壞レテ遂ニ滅亡スルニ至ラン然ラハ裁判官ハ立法權ニ向テ解釋ヲ乞ハシカコレ立法者ヲシテ裁判官ノ職ヲ行ハシムルナリ立法者ヲシテ法律ヲ解釋セシムルノ場合ナキニ非サレトモコレ特別ノ場合ニ限ル

法律ノ不備ナルトキ即チ或ル事件ニ法律ニ明文ナキトキモ尙ホ裁判官ハ裁判ヲ爲サル可ラス法律不備ナルトキハ法律ニ欠缺アルナリ即チ法律ナキニ均シキナリ法律ナキモ何故ニ裁判官ハ裁判ヲ下サ、ル可ラサルカ一見スレハ裁判官ハツノ職掌外ニ出ツルモノ、如シ裁判官ノ職掌ハ法律ヲ適用スルニ在ルニアラスヤ法律ナキニ裁判ヲナスハ裁判ヲナスト同時ニ法律ヲ作ルニアラスヤ此場合ニ於テハ裁判官ハ立法者ニ欠缺アルコトヲ告知シテ之ヲ補フノ法律ノ出クルヲ待ツ方政權分離ノ原則ニ合フニアラサルカ

佛國ニ於テ革命以前法律ニ不明不備ノ点アルトキハ裁判所ハ當事者ヲシテ王ニ向テ法律ノ解釋ヲ乞ハシメタリ革命中ノ法律ニシテ不明ノ法文アレハ裁判官ハ必ス立法者ニツノ解釋ヲ乞フコトヲ命シタルモノアリ(後段ニ於テコノ法

律ノ目的ハ何レニ在リシカラ説クヘシ裁判官ハコノ法律ヲ濫用シテ少シク法文ニ疑ハシキコトアレバ直ニ立法者ニ向ツテツノ解釋ヲ乞ヘリカツノ如クスルトキハ訴訟ノ進行ヲ中斷スルノ不都合アリ而シテコレ殆ンド立法權ヲシテ司法權ヲ代リ行ハシムルナリ立法權ハ革命亂雜ノ間三大權ニ已ニ集ムルニ至レリコレ大ニ害ヲナセリ故ニ前加篇第四條ヲ設ケテコノ害ヲ防カンコトヲ期セリコノ條ハ法例第十七條ト殆ント同文ニシテ唯ツノ制裁ヲ示シタルノミ此ノ如ク法律ノ不明不備ノ爲メ訴訟ヲ中斷シテ立法者ノ解釋ヲ與フルヲ待チシハ裁判ヲ拒ムニ同シ右ノ如ク立法者ニ送附スルコトニ付テ法律ヲ設ケタリシコレ適々ツノ弊害ヲ更ニ甚シカラシムルニ足リシノミ何トナレハ立法者ヲシテ裁判官タラシムルノ結果ニ至リタレバナリ立法者ノ下ス所ノ解釋ハ一ノ法律ナリ然ルニコノ法律ハ訴訟事件起リテ後コノ事件起リレニ依リ生セシナリ故ニコノ法律ハ法律ニシテ又裁判ノ性質ヲ兼有スルナリ事件起リテ后ニ作リタル法律ナルカ故ニツノ公平疑フベシ而シテツノ効力ハ常ニ既往ニ溯ルモノナリ法律ノ効力ヲシテ既往ニ溯ラシムルノ害トツノ正義ニ反スルコトハ第

二條ニ就テ既ニ述ベタルヲ以テ今茲ニ再言セズ況ンヤ法律ニシテ裁判ノ性質ヲ有スルニ於テハツノ害ノ大ナル多辯ヲ待タズシテ知ル可キナリ
法律ノ解釋又ツノ欠缺補充ニ付テ裁判官カ立法者ニ依頼スルノ弊ハ實ニ爭フ可ラザルナリ裁判官ハ法律ナシトテ裁判ヲ拒絕ス可ラズ法律ヲ以テ生シ來ルヘキ爭ヲ盡ク逆睹シテ判定スレハ到底出來可ラザルノコトナリ若シコレ爲シ得ヘキノコトナラハ裁判官ハ不用ナリ銘々法典ヲ披見セハ直ニツノ判決ヲ見出ス可シコレ爲シ得ヘカラサルノコトナリコレ裁判所ノ設ケアル所以ナリ然レトモ法律ナキト雖モ裁判官ハ判決セザル可ラストノ規則モ亦コレニ伴フノ弊ヲ有ス裁判官ヲシテ立法者ノ職ヲ行ハシムルノ憂ナキニアラスヤ左スレハ尙ホ立法司法兩權ノ混淆アルヲ免レザル可シ
此批難ニ對スルノ答種々アリ或ハ云フ法律不明ナルトキハツノ文意ヲ探求ス可シ若シ法律ニ欠缺アルトキハ慣習又ハ條理ニ問フテ判決ス可シ條理ハ自然法ノ指シ示ス所ナリ裁判官ガ慣習ニ循由スルトキハ裁判官ハ法律ヲ制定スルニ非ス慣習モ亦タ明定ノ條規ナルヲ以テ裁判官ノ之ヲ適用スル猶ホ法律ヲ適

用スルカ如シ然レトモ條理即チ自然法ニ由ルノ場合ハ之ニ異ナリ自然法ハ何處ニモ書付ケタルモノナシ人或ハ云ハン裁判官ハ之ヲ作ルニ非ス自然法ハ固ヨリ有ルモノナリ裁判官之ニ由テ判決スルノミ自然法ハ判決ニ先テ存スルナリ何處ニモ明記シタルコトナキモ各個ノ良心ニ彫レ付ケアルニアラスヤ誠ニ然リ然レハ立法者ノ法律ヲ制定スルニ當テモ別ニ作爲スル所アルニ非ス既ニ存スル所ノ條理ヲ明カニ述フルニ過ギス故ニ裁判官カ法律ナキトキニ爭ヲ斷スルトキハツノ爲ス所ハ立法者ノ爲ス所ニ異ナラス彼先ツ條規ヲ定メ然ル后之ニ由テ起リタル爭ヲ判決スルナリ唯ツノ異ナル所ハ判決ハ當事者及ヒツノ事件ニ限リツノ効力ヲ有シ法律ハ人民一般ノ遵守スヘキモノニシテ將來起ルヘキ爭ハ皆ナ之ニ由テ判決スヘキモノナリ

故ニ法律ニ欠缺アリトモ裁判官ハ必ス判決セザル可ラザルコトナシタルハ法律ノ不備ヨリ來ル所ノ不都合ヲ兩ナカラ避クルヲ得ス唯ツノ一ヲ避クルノ立法者ガ訴訟ヲ判決スルノ弊ハナキモ裁判官ノ時ニ立法者トナルノ不都合ハアルナリ佛國立法者ハ二害ノ中ツノ小ナル者ヲ探ラント欲シテ佛國民法前

篇第四條ノ如ク定メタリ裁判官ノ了見ニ一任スルノ判決固ヨリ憂フ可キコトアリト雖モ裁判官尙ホ小心ニ條理ノ在ル所ヲ求メ大ニ注意ヲ加フルコトアリ而シテ判決ハ破毀セラル、コトアリ又懲戒法ノ有ルアリ獨立ニシテ會テ他ニ向テ責任ヲ有セザル大權即チ立法權ノ專斷ニ比スレハツノ弊ハ遙ニ小ナリ佛民法第四條ノ起因此ノ如シ我法例第十七條ヲ設ケシモ佛國民法制定者ト同様ノ憂慮ヲ懷キタルモノト知ルヘシ

規則ニ從テ訴訟ヲ提起シタルトキ三ノ場合アリ

第一 提起シタル訴訟ノ場合ニ適用スヘキ明且正確ナル法文アリコノ場合ニ於テハ裁判官ハコノ法文ヲツノ儘ニ適用セサル可ラズツノ正義ニ協フヤ否ヤヲ問フ可ラズ又ツノ憲法ニ合フヤ否ヤモ吟味ス可ラズ裁判官ハ法律ニ循由シテ判決ヲ下ス可キナリ法律ヲ批判スヘキ者ニアラズ

第二 法律ニ提起シタル事件ニ適用ス可キ明條ナシコノ場合ニ就テハ既ニ論スル所アリタリ故ニ再言セズ

第三 法文不明ナリコノ場合ニ於テハ裁判官ハ法律ヲ解釋セザル可ラズ即チ

法律ノ解

法文ノ意味ヲ究明指定シテ以テ事件ニ當テハメザル可ラズ法律解釋ノ方法ハ下段ニ説ク可シ

第四章 法律ノ解釋

法律ノ意味ヲ明ニシテ而シテ其及フ可キ區域ヲ定ムルコレ法律ノ解釋ナリ法律解釋ノ必要ハ唯法律ノ完全ナラザルヨリ起ルニ非ズ法律ノ性質然ラシムルナリ若シ法律ノ不完全ナルヲ以テ解釋ヲ要スルモノナラハ解釋ヲ用フルニ及バザル様ニ法律ヲ制定シ得ルコトヲ庶幾ヒ得ベシ哲學者中カハル空望ヲ懷キ居タルモノアリシ立法者中ニモ亦此ノ如キ人アリシ奇悖ト謂フ可シ羅馬帝ジユスチニアンハ裁判例諸學說ヲ編成シ殆ンド法典ヲ作リシ所ノ法律ノ大家ニシテ今日ニ至ルマテ法律家ノ尊崇シテ措カザル程ノ人ナリ此帝右ノ編纂ヲ了ヘタルトキ法律ノ學問ハ茲ニ盡キ此上ニ一モ加フベキナク又損ス可キナシト信ゼリ故ニ後世大膽ノ學者輩ガ解說ヲ口實トシテソノ作爲セシ所ノモノヲ毀損センコトヲ虞リテ一切註釋ヲナスコトヲ禁シタリ此ノ世ノ中ニ起リ得ヘキ場合ヲ盡

法律解釋ノ種類

ヲ豫見シテ法ヲ設ケ得ルニ非レバ解釋ヲ要セザル法律ヲ作ル能ハザルナリコレ到底出來ヘキコトニ非ズ歐洲ニ於テ數百年以來ノ實驗ノ之ヲ証スルアリ蓋シ法律ハ唯一般ニ就テ規則ヲ設ケ得ベキモノナリ故ニ法律ニ定ムル所ノ一般ノ原則ヲ實際生シ得ベキ殊別ノ場合ニ適用スルニハ常ニ法律ヲ解釋スルノ必要アリ

法律解釋ノ種類

法律ノ解釋ヲ大別シテ二種トス私ノ解釋及ヒ公ノ解釋是レナリ私ノ解釋ハ法律學者代言人等ノ如キ私人ノ爲スモノニシテ唯條理トシテ權力ヲ有スルノミ公ノ解釋ノ私ノ解釋ニ異ナル所ハ人ヲシテ服從セシムルノ權力アルコトナリ又之ヲ細別シテ裁判上ノ解釋及ヒ立法上ノ解釋トス裁判上ノ解釋ハ裁判所ノ爲ス所ニシテ當事者ハ訴訟トナリタル事件ニ就テハ之ニ服從セサル可ラス

立法上ノ解釋ハ人民一般之ニ服從セサル可ラサルモノナリコノ解釋ハ理論上應ニ立法者ノ爲ス可キモノナリト雖モ佛國ニ於テハ一世那破烈翁ノ時代參事

法律解釋上由ルヘキノ規則

院ト君主コノ權ヲ有セリ若シ或ル場合ニ於テハ必スコノ解釋ニ依ラサル可ラサルモノトスルトキハ其弊甚シ目下佛朝西白耳義ニ於テモコレヲ隨意トセリコノ解釋ノ入用アルハ或ル法文ノ解釋區々々々ニシテ爲メニ絶ヘス訴訟ノ起ルコトアル場合ナリ

法律解釋上由ルヘキノ規則

其公法タルト私法タルトヲ問ハズ總テ法律ヲ解釋スルニ於テ由ルヘキノ規則アリ

我法例草案ニハ法律解釋ニ關スル規則アリ成法ニハコレヲ省ク蓋シコノ規則ハ學說ノ定ムル所ニ任スルノ意ナリシナラン佛國民法前加篇ニコノ規則ナレ全シク草案ニ載セタルモノヲ刪除シタルナリ歐洲諸國ノ法律多クハコノ規則ヲ示ス

法律解釋者就中裁判官ノ役ニアリ第一法律ノ眞意ヲ究明スルコト第二法律ニ定メタルノ原則ヲ法律ガ豫見セザリシ事件ニ適用シテ以テ法律ノ欠缺ノ爲メニ生シタル爭ヲ斷スルコトナリ

第一法律ノ真意ヲ究明スルノ要則左ノ如シ

解釋者ハ法文明了ナルトキハ第一ツノ文義ニ依ラザル可ラズ法律ノ精神ヲ探求スルヲ口實トシテ法文ノ意ヲ屈ルヲ得ザルナリ然レドモ法律ノ文義ニノミ依ル可ラザル場合アリ立法者ノ真意ヲ言ヒ顯ハサハルコトアリコノ場合ニ於テハ立法者ノ真意ヲ探リ法律ノ精神ヲ求メテ之ニ從フ可シコノ場合ニ限リ法律ノ文義ヲ捨テハツノ精神ヲ取ルヘキナリ但シ先ツ果シテ文義ノ精神ニ合ハサルコト判然証明セラルヘコトヲ要ス法律ノ意味明了ナラザルトキハ解釋者ハ左ノ方法ヲ以テ真意ヲ求ム可シ其一 不明了ハ法文ト同シキ事類ニ關スル法條ト比照ス可シ同事ニ關スル法律ノ法條又ハ同一ノ事柄ニアラサルモ類似ノ事柄ニ關スル法律ノ條文ハ彼此脈絡ヲ通シテ恰モ一體ヲナスモノナリ故ニ解釋者ハ彼此比照參觀相背戾セサラシムルヲ要ス

其二 解釋スヘキ法文ノ根源ニ溯ルヲ要ス舊法ノ文ヲ其儘採リ用ヒタルトキハ立法者ハ尙ホ舊法ニ於テ有セシ意味ヲ存スルノ意ナリシナルヘシ

第三 草案及ヒツノ法律トナル迄議事問答報告ノ類即チ下調ヘテ參考スヘシコレ實ニ屈強ノ解釋ノ具ナリ然レトモコレヲ以テ法律ノ公ノ解釋ト思フ可ラス特ニ佛國ニ於テハ大ニツノ信據ス可ラサルノ理由アリ我六法ハ議會開設前ノ制定ニ係ルヲ以テ下調ヘニ關スルノ書類ハ完備セサル可シ但シ問答錄アリト聞ケハツノ公ケニナリタル時ハ草案理由書ト俱ニ大ニ解釋者ノ便利トナルヘシ

第四 解釋ニ從テ生スル所ハ法律ノ結果ヲ審定スヘシ可成ハ結果ヨキ方ニ解釋スルヲ要ス但レコノ法ニ依ルニハ大ニ小心ヲ要スルナリ結果ノ爲メニ法律ノ真意ヲ害スルコトアル可ラス

第五 法律ノ精神ヲ問フ可シ即チツノ理由ト目的トヲ求ム可シ下調書類及ヒ法律ノ由テ來リシ本源中ニ之ヲ求ム可シ日本民法ノ條文中ツノ源ヲ佛國民法ニ取ルモノ甚タ多シ

法律ノ包含即チツノ及フヘキ區域ヲ定ムルニハ重モニ法律ノ精神ヲ問フヲ要ス刑事ヲ除テハ法律ハ文言ニ包含セサルモ其精神ニ包含スル場合ニハ盡ク適

用スヘキモノナリ之ニ反シテソノ精神ニ於テ許サ、ル場合ニハ其文言ニ包含
スルモ適用ス可ラサルナリ

(第六回)

第五章 邦土ニ關スル法律ノ効力

邦土ニ關
スル法律
ノ効力

コレ法律ノ効力ニ關スルコトニシテ第二章中ノ一節トスヘキコトナレトモコ
レヲ後段ニ譲ルノ理由ハ同章第二節ノ始メニ之ヲ述ヘタリコレ法例十七條中
十二箇條ニ涉リテ規定セラレタル事項ニシテ重要ノ事ナルニ依リ之ヲ一章ト
ナス

我法律カ國內ニ在ル所ノ日本臣民ハ盡ク之ヲ支配スルハ論ヲ俟タヌ又法律ノ
種類如何ヲ問ハサルナリ一切臣民ヲ服從セシムルヲ其持前トス然ルニ人常ニ
其國境內ニ住セス或ハ國外ニ遊歴シ或ハ外國ニ住居ヲ定ムルコトアリ又外人
ノ本邦ニ來リ住スル者尠カラズ二問題コレヨリ生ス

第一問題 去テ外邦ニ在ルノ日本人ハ尙ホ日本法律ノ支配ヲ受クヘキカ、換言

セハ外國ニ在ル日本人モ尙ホ日本法律ヲ遵奉スヘキモノナリヤ
第二問題 日本ニ在ル外人ハ日本法律ニ服從スヘキヤ將タ各々ソノ本國ノ法

律ノ支配ヲ受クヘキモノナリヤ
此二問題ノ意ヲ約スレハ法律ハ人ニ追隨スルヤ將タソノ効力ハ國境ニ止ルモ
國境內ニ在ル者ハ盡ク之ヲ支配スルヤト云フニ在リ人ニ追隨シテ外國ニ到ル
ハ法律アリ(第一類又否ラサルモハアリ(第二類トハ近世歐洲ノ學者ノ其ニ唱フ
ル所ニシテ實際モ亦タ然リ唯如何ナル法律ハ第一類ニ屬シ如何ナル法律ハ第
二類ニ屬スルヤニ至ツテハ學說ニ於テモ實際ニ於テモ區々々々ナルモノ少カ
ラス第一類ヲ屬人法第二類ヲ屬地法ト云フ
コノ問題ニ就テハ法律學上ノ變遷アリト雖トモ今之ヲ茲ニ述ヘス三四回ノ講
義ヲ以テスルモ尙ホ盡ス能ハサルヘシカ、ル詳細ナルコトハ講スベキ場所ニ
アラズ然リト雖トモ今日尙ホ多クノ學者ノ採ル所ノ者ハスタチニ主義ナリ「ス
タチニ」ハ茲ニ於テ法律ト云フ意味ナリソノ說ニ曰クスタチニ、レ、エル、管物法」ハ
國境ヲ出テス而シテ國境內ニ在ル者ハ内外人ヲ問ハス悉クソノ支配ヲ受ク「ス

タチユ、ベルノネル「管人法」正ニ之ニ反ス管人法ハ人ノ到ル所ニ追隨ス管物法トハ物ヲ規定スルヲ、ゾノ重モナル目的トスルノ法律ノ謂ヒナリ管人法トハ直接ニ人即チ人ノ身分能力ニ關スル法律ヲ云フ此原則甚タ明了ナリト雖トモ、ゾノ適用ニ至ツテハ甚タ困難ニシテ且ツ混雜ヲ極メ問題トシテ一致ノ說アルモノ殆ントコレナキ有様ナリ爲メニ原則ノ真正ヲ疑フモノ有ルニ至レリ蓋シ財產ハ人ノ爲メニ存ス人ハ主ニシテ財產ハ從タリ人ヲ以テ土地ノ附屬視シタルハ封建制度ノ謬見ノミ故ニ總テ法律ハ人ノ爲メニ設ク法律トシテ人ヲ重モナル目的トモザルモノ有ルコトナシ夫ハ兎セ角モ人ヲ離レテ法律ナキハ勿論ナリ人ニ關係ナキ法律ナク又財產ニモ間接直接ニ些少ノ交渉ナキ法律ナシ例ヘハ身分ニ關スルノ法律親屬ノ關係ヲ規定スルノ法律ノ如キ一見スレハ唯人ニ關スルノ法律ニシテ所謂管人法ノ尤モナルモノナリ然ルニ尙ホ財產ニ關係アリ故ニ法ノ管人管物タルヲ區別スルハ實際ニ於テ甚タ困難ナルコトアリ例ヘハ相續法ノ如キ又妻カツノ夫ノ財產上ニ又被後見人カ後見人ノ財產上ニ有スル法定ノ抵當ヲ規定スル法律ノ如キ是レ管

人法ナリヤ將タ管物法ナリヤ議論區々々ナリコレ基礎ノ不定ナルニ依ル不定ナル基礎ニ依テ法律ノ屬人屬地ヲ分ツハ出來ヘキ事ニアラス基礎既ニ確定ノモノニアラス、ゾノ應用ニ至ツテ一致ヲ見サルハ驚クニ足ラサルナリ日耳曼ノ蠻民羅馬帝國ヲ蹂躪シテ殆ント全土ニ散在セリ此ノ時ニ方リテコロノ蠻民ハ到ル處ニツノ所屬部落ノ法律ニ從ヘリ法律ハ盡ク屬人ニシテ屬地ノモノナカリキ其ノ後封建ノ時代ニ至リテハ反對ノ極端ヲ採リテ法律ハ皆ナ屬地ノモノトセリ此ノ兩主義ノ孰レニ依ルモ内外法律ノ抵觸ノ生スヘキ管ナ

之ヲ換言スレハ總テ法律ヲシテ無制限ナル屬人又ハ屬地ノモノタラシムルトキハ内外法律ノ抵觸ノ生スルコトナシ國際私法ハ、私益ニ關シテ屬人主權ト、屬地主權トノ衝突ヲ解クハ法ナリトノ定義ヲ下ス人ニ追隨スルノ主權ヲ屬人主權ト云ヒ國境內ニ在ルモノハ人ト物トヲ問ハス盡クツノ威力ヲ及ホシ而シテ國境ヲ出テサルノ主權ヲ屬地主權ト云フ例ヘハ茲ニ日本人ニシテ佛國ニ在ツテ結婚スルモノアリ日本ノ法律ニ依ルヘキカ將タ佛國ノ法律ニ依ルヘキカ即チ日本

ノ屬人主權ト佛國ノ屬地主權トノ間ニ衝突アリコレ兩主權ノ存スルアレハナ
リ若シ法律ハタ、屬人ノ性質ノミヲ有スルトスレバ此場合ニ於テ唯日本法ノ
ミ支配スベキ管ニシテ佛法ノ關スル所ニアラズ若シ屬地ノ性質ヲ有スルトス
レバ日本法ハ日本外ニツノ効力ヲ及ホスモノニアラサルヲ以テコレ獨リ佛法
ノミ關知スヘキコトナリ日佛法律ノ接觸ノ生スベキ管ナシ好シテ接觸ヲ生セ
シム可キニアラサルモ事物ノ性質ヲ察シ、國家ヲ重シシ而カモ各國並立シテ相
害セサラントズルトキハコレ實ニ己ムヲ得サルコトナリ若シ法律ヲシテ屬人
ノモノトシ而シテ毫モ制限ナカラシメハ外人來テ我國ノ大禁ヲ犯スモ如何ト
モスル能ハサルナリ國ノ存立安全得テ保ツヘカラス然レドモ唯屬地ノモノド
スルトキハ諸權利ノ享有行使、地ヲ轉スル毎ニ變更シテ不定ノ有様ニ陷ル、コレ
大ナル不便ニシテ古代既ニコノ不都合ヲ感シタリ而シテコレ人ヲシテ土地ノ
附屬トスルモノニシテ事理ニ合ハス法律ハ人ヲ目的トスルモノニアラスヤ故
ニ總テ法律ハ屬人ノ性質ヲ有スベキモノナリ

屬地主義屬人主義共ニ真理ノ一元素ヲ有スト雖トモ兩ツナカラ誤リタルノ原

第一ノ制限

則ナリ兩主義ヲ調和シテ始メテ眞ノ原則ヲ得ルナリ
前ニ述ヘシ如ク法律ハ元來屬人ノモノナリ唯外國ノ公益ハ制限ヲ受クヘシ、公
益ニ關スル法律ハ屬地法ナリ荷モノノ邦土内ニ在ルモノ皆ナツノ支配ヲ受ク
コレ第一ノ制限ナリ方式ハコレヲナス場所ノ法律ニ從フコレ第二ノ制限ナリ
第三ノ制限ハ人々ノ意思コレナリ
故ニ人外國ニ在ルモ其本國法ハツ人ニ追隨シテ之ヲ支配スルヲ原則トス但
シツノ所在國ノ公ケノ秩序即チ公益ニ關スル法律ハ遵奉セサル可ラス然レト
モ公ケノ秩序ヲ區別スルヲ要ス國民ノ必ス遵奉セサル可ラサルノ法律ハ公
秩序ニ關スルノ法ナリ刑罰法、行政法ノ如キ無論コノ部類ニ屬ス私法中亦公
ノ秩序ニ關スルノ法アリ例ハ所有權ヲ規定スルノ條項身分能力ニ關スル
法ノ如キコレナリ然ルニ身分能力ニ關スルノ法ハ恰モ屬人法ナリトナス所
モノナリ日本新民法ニ依レハ滿二十歳ヲ以テ成年ノ期トス佛國ニ於テ滿廿一
歳ナリ佛人ハ合意其他ノ方法ヲ以テスルモコノ規則ノ適用ヲ免ル、ヲ得サル
ナリ然レトモ日本人ハ佛國ニ在ルモ滿二十歳ニ至レハ成年者タリ佛國ノ公益

之ニ依テ害セラル、ナシ元來年齡ニ依テ能力ヲ制限スルハソノ國民ヲ保護シ從テ一國ノ利益ヲ圖ルノ主意ニ出ヅルモノニシテ他國人民ノコトハ關リ知ル所ニアラサルナリ公ノ秩序ニシテ外國法律ノ適用ニ依テ害セラル、モノアリ之ニ國際公秩ノ名稱ヲ附シテ他ト區別ス不動產授受ノ登記ニ關スルノ法所有權ヲ規定スルノ法ノ如キ是レナリ英國ニハ登記ノ制ナシ然レトモ英人ノ我國ニ於テ不動產ヲ買フタル者ハ之ヲ登記セサレハ第三者ニ向テ無効ナリコレ一般信用ヲ進ムルノ法ニシテ一國ノ富ヲ圖ルノ法律ナリ外人若シ之ヲ遵奉スルノ義務ナク本國法ヲ援用スルヲ得ルトストキハ此法例ハソノ目的ヲ達スル能ハサルナリ故ニ知ルヘシ國際公秩ハ常ニ國內公秩タルモ國內公秩ハ常ニ國際公秩タルス即チ國際公秩ハ國內公秩ノ一部分タルヲ知ルヘシ國際公秩ノ何モノタルヲ説キソノ如何ニ法律屬人ノ原則ノ適用ヲ制限スルヤヲ示シタリ今國際公秩ノ領域ヲ明定スヘシ

如何ナル場合ニ於テ外國法ノ適用ヲ制限スヘキヤ

外國ニ在テソノ權利ヲ行ハント欲スル者ハ其國ノ大憲タル諸法律ニ從ハサル

可ラサルハ論ヲ俟タス邦國ノ成立統治ノ事ヲ定メ主權ノ行使ヲ規定シ國民ノ權利ヲ明カニシ而シテコレニ制限ヲ置ク等ノ事ハ皆ナ憲法ノコトナリ此諸般ノ大則ハ最モ國家ノ組織ニ關スルモノニシテ一個人特ニ外人ノ抗スルヲ得ヘキモノニ非ス自己ノ屬人法ニ據テ以テソノ國民ノ有セサル權利ヲモ請求スルヲ得サルナリ故ニ公權ニ就テハ外人ハ內國人ト同様ノ制限ヲ受ケサル可ラス外人ハソノ本國法ヲ援テ以テ身体ノ自由出版ノ自由集會ノ自由等ノ制限ヲ免ル、ヲ得ス而シテ土地ノ制度ニ關スルノ法ノ如キモ公法中ニ算スヘキモノナリ邦土ハ不動產ノ集リテ成リタルモノナレハ其所有者ノ國籍如何ニ拘ハラズソノ制度ハ甚タ重要ノ關係ヲ有スルモノナリ若シコレニ關スル外國法ノ適用ヲ許ストキハ折角ノ法律モ其効ヲ奏スルヲ得サルニ至ル

刑罰ノ性質ヲ有スルノ諸法律ハ同シク國際公秩ニ關スルモノナリ抑刑罰ナルモノハ主トシテ國ノ風教ヲ維持スルニ在リコレ國ヲ保ツノ具ニシテ且ツ幾分か正當防衛ノ性質ヲ有ス一人盜ニ遭フ、コレ取りモ直サズ國家ヲ傷害セタルナリ苟モ國ヲ傷害スルコトアレハ其事主何レノ國籍ニ屬スルヤヲ問フヲ須非ス

ソノ事主ヲ罰スヘキナリ而シテソノ其國ノ法律ヲ以テ之ニ擬スヘキナリ何トナレハコレソノ國ニ必要ナル法律ナレハ外國ノ法律ハ各其國ニ通スヘキモ、ノ他國ニ通スヘキヤ否ヤハ知ル可ラス或ハ重キニ失シ或ハ輕キニ失スルヲ思ナキヲ期ス可ラサレハナリ

上ニ列舉スル所ノ國家紀綱ニ關スルノ諸法律及ヒ刑罰法ノ外如何ナル法律ハ國際公秩ニ關スルモノナリヤ何ニ依テソノ之ヲ知ルヲ得ヘキヤコレ裁判官ノ判定スヘキコトニ屬ス而シテ裁判官ハコレヲ判定スルニハ立法者カ或ハ條項ヲ判定スルニ當リ目的トセシ所ヲ常ニ念頭ニ置カサル可ラス若シソノ目的ハ公益ニ存シ而シテ外國法律ノ適用ニ依テコノ公益カ害セラレトト觀ズルトキハ外國法ニ依ラス國法ニ依テ爭ヲ斷セサル可ラサルナリ國家ノ利害ニ就テハ立法者ハ誤見ヲ有スルコト往々ニシテコレアリ經濟道義宗教止ニ於テ屢見ル所ナリ穀物輸出ハ國害ナリト思ヒシハ獨リ我國ノ經濟家ニ止マラス歐洲ニ於テモカク思ヒンナリ朝鮮支那ニ於テ今日尙ホコノ謬見ヲ有スルモノ甚タ多キカ如シ朝鮮ニ於テ此頃ニ至ル迄防蔽令ノ出ヅルコト屢ナリ我國ニ於テモ大体穀

物ノ輸出ハ禁制ナリシ、コノ誤見タル近日之ヲ疑フモノモ殆ントナキ程ナレトモ若シコノ禁制ニシテ今日尙ホ存スルコトアラハ公益ニ關スルノ法律トシテ之ヲ取扱ハサル可ラス或ル宗教ヲ禁スル法律ノ如キ異教信徒ノ取扱ニ關スル法律ノ如キ立法者ノ誤見ニ出ヅルモノ少カラズ却テ公益ヲ害スルノ實アルコトモ有リ得ベキコトナレトモコノ法ノ存スル限リハ公益ニ關スル法律トシテ之ヲ適用セサル可ラズ

上ニ述ル所ノ原則ハ法例第十四條ノ明カニ認識スル所ナリ然レトモ公ハ秩序及ヒ善良ノ風俗云々ト云フニ過ギヌヲノ判定ハ裁判官ニ屬スト云フト雖トモ隨分茫漠タルコトナルカ故ニ法律ヲ以テ之ヲ明定スルヲ得バ其便益タリヤ大ナリト云フ可シコノ点ニ就テ白耳義民法草案ハ我法例ニ比シテ大ニ詳カナリ依テ第十四條ヲ解釋適用スルニ當リ幾分カ資益スル所アルベキヲ思ヒコノ條ニ相當スル所ノ白草案第二十六條ヲ茲ニ譯出ス

第二十六條 社會ノ權利ニ關スル諸法律ハ合意ノ場所當事者ノ國民分限及ヒ財產ノ性質ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ適用ス蓋シコノ場合ニ於テハ常ニ白耳義

法ヲ適用スルノ謂ヒナリ

第二十六條 (第七回)

此ノ規則ハ左ノ法律ニ適用ス

第一 公法及ヒ刑法ニ屬スル諸法律

第二 善良ノ風俗ニ關スル諸法律

第三 相續ノ事ニ付テノ政治上特權ヲ廢スルノ諸法律

第四 時効ヲ規定スル諸法律但シ得權時効ハ財產所在地ノ法律免責時効ハ

義務ノ生シタル地ノ法律ノ規定ヲ受ク

我法例草案第二十條ハ第三項ノ相續云々ヲ保安ニ係ル法律トシタルノミニテ

他ハ草案ノ二十六條ニ異ナル所ナシ

右四項ニ列舉スル所ノ法律ハ例トシテ唯重要ナルモノヲ示シタルモノニシテ限

定スルノ主意ニアラス列舉スル例詳ハ則チ詳ナリ然レトモ未タ盡セリト云フ

可ラス故ニ右列舉外ノ事項生スルトキハ第一項ノ原則ニ歸リテ社會ノ權利ニ

關スルヤ否ヤヲ研究セサル可ラス然ルニ是レ甚タ困難ナルコトニシテ明切ナ

ル定義ヲ得ル能ハス

法律上ノ行爲ヲ解剖スレハ二箇ノ元素アルヲ見ル可シ一ハ内部ノ元素ニシテ

行爲ノ成立ニ必要ナル條件ヲ包含ス合意ニ於テハ當事者ノ能力ヲノ承諾及合

意ノ目的ヲノ原因ノ如キコノ内部ノ元素ニ屬ス一ハ外部ニ屬スル元素ニシテ

行爲ヲノモノニハ關係ナク唯爭ヒノ起リタルトキソノ証明ヲ便スルヲ目的ト

スルモノナリ或ハ書付或ハ公吏ノ臨席或ハ公示ノ方法ノ如キ是レナリ

右第二ノ元素之ヲ方式ト云フ場所ハ方式ヲ支配ス即チ方式ハ之ヲナス場所ノ

法律ニ從フト云フコト古來ヨリノ原則ナリ我法例第九條ハ此原則ニ基ヒテ設

ケタルモノナリ公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ方式ニ從フトア

リ例ヘハ英人ト佛人トノ間ニ獨逸ニ在ル不動產賣買ノ契約ヲ爲ス而シテ伊太

利ニ於テ證書ヲ作ル此場合ニ於テ證書方式ハ伊太利ノ法律ニ合フトキハコノ

證書ハ有効ナリ即チ證據ノ書付トナルナリ證書ハ無効ナルモ合意ハ必スシモ

無効ナルニアラサルハ論ヲ俟タス

方式ニ種々アリト雖トモ茲ニ證書ノ方式ト云フハ證據ノ力ヲ與フルノ方式即

(法例)

チ爲信方式ト云フモノナリ例ヘハ公正證書ニ就テハ明治十九年八月十一日法律第二號公證人規則第二十八條以下ニツノ方式ヲ規定ス一人若クハ二人以上ノ立會證人ヲ要ス又證書ヲ作リタル年月日及ヒ場所ヲ記入スルヲ要スル等ノ如キ是レナリ私署證書ニハ此ノ如キ方式ヲ要セサルモ證據編第二十一條ニ雙務契約ヲ證スル證書ニハ反對ノ利益ヲ有スル當事者間ニ正本二通ヲ作り且ツ之ニ署名捺印スルコトヲ要ストアリ

法律ハ何故ニ證書ヲ有効ノ爲メニ方式ヲ命スルヤコレ證書ハ法廷ニ於テ事ヲ證スルノ用ニ供スルモノナルヲ以テナリ證書ハ司直ノコトニ於テ實ニ重要ノモノナリ是故ニ證書カ法律上ノ行爲ノ證據トナルニハ或ル方式ニ從テ之ヲ書ク可キコトヲ法律ニ於テ定ムコレ此確切ニ事ヲ證セシメシ爲メナリ故ニ方式ハ極メテ大切ナルモノナリ方式ノ法律ニ合フト否ヤトハ證書ノ効力ノ有無即チ證據トナルト否ラサルトニ依テ分ル所ナリ而シテ證書即チ書面證據ノ如何ニ依テ訴訟ヲ裁判スルコト通常ナリ

何故ニ證書ハ方式ハ之ヲ作ル場所ハ法律ニ從フヤ

第一必要ヨリ生スルノ理由アリコレ一同異存ナキノ點ナリ外國人日本國ニ在リテツノ本國法若クハ財産所在地ノ法律ニ從フハ實際出來可ラサルコト甚ダ多シ故ニ日本人外國ニ在リテ日本ノ法律ニ依ル能ハサルコトモ亦タ屢コレアル可キコトナリト知ル可シ

日本ニ於テハ佛國ニ於ケルカ如ク公正證書ヲ作ルハ重モニ公證人ノ職ナリ然ルニ獨乙ニ於テハ概シテ裁判所ノ職掌トス普漏生法ニ依レハ遺言ハ法廷ニ於テ之ヲナス可キ規則ナリ日本ニ於テハ然ラス公證人ヲ面前ニ於テ之ヲ爲スヘキコトナリ普漏生人日本ニ在リテ法廷ニ於テ遺言ヲ爲サント欲スルモ出來可ラサルコトナリ裁判官ハツノ管轄外タルノ言渡シヲナスヘキコトナリ故ニ普漏生人カ日本ニ於テ公證人ノ面前ニ於テ遺言ヲ爲セタルトキハコノ遺言ヲ證スルノ公正證書ハ有効ノモノニシテ遺言モ從テ有効トセサルヲ得スコレ實際已ムヲ得サルコトナリコレト同シ譯ニテ日本人カ公證人ナキ國ニ在リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ其國ノ法律ニ循由セサルヲ得サルナリ

私署證書ニ就テハ前述ノ如キ困難アルニ非サルモ毫モコレナキニ非ラズ證書

ヲ作ルニ當リ實際筆ヲ執ル者ハ誰ゾ當事者ノ躬カラスルコトハ稀レニモテ多クハ黑人即チ公證人代言人代書人ノ如キ者ニ依頼スルモノナリ然ルニ彼等ノ職ヲ行フ國ノ法律規則ヲ知ルノミ他國ノコトハ知ラサルヲ常トス而シテ當事者ハ多クハ何レノ國ノ法律ヲモ知ラサルナリ故ニ依頼ヲ受ケタル公證人若クハ代言人ハ其國ノ法律ニ據テ證書ヲ作ルハコレ亦其實際上ノ必要ト云ハサル可ラス

此ノ如クシテ作りタル証書ハ到處證據トナラサル可ラス否ラサレハ民事上ノ行為ハ安全ナルヲ得サルナリ云々トボレタリスハ云ヘリニモテ當事者ハ必要ハ唯一ハ理由ナリヤコノ問題ハ其影響スル所甚々大ナリ何者必要止トキハコレヨリ生スル所ノ規則モ同時ニ其適用ヲ失フモノナレハナリローラシ氏ノ説ニ依レハ唯必要ノミコノ規則ノ根據ニアラスコレ亦一條理ニ基ツクモノナリ其説ニ曰ク證書ノ方式ノ目的ハ何ニ在リヤコレ詐欺其他不正ナル外力ヲ防遏シテ當事者ノ意思ノ自由發表ヲ保護スルニ在リ此目的ヲ達スルニ最も便利ナリト信スル所ノ方式ヲ制定スルハ各國立法者ノ事ナリ公正證書ニ在

ツテハ立會證人ノ資格ハ甚々大切ナルコトナリ而シテ立會證人タルノ資格ヲ有スルニ必要ナル條件ヲ定ムルハ其國ノ立法者カ最も適當ナルコトハ勿論ナリ私署證書ニ就テハ法律ハ唯手署ノミヲ命スルヲ常トス(日本ニ於テハ捺印佛民法第千三百廿六條我證據編第廿三條之ニ相當ス)ニ依レハ債務者カ證書ノ本文ヲ自書セサルトキハ手署ノ外金額又ハ數量ヲ自書スルヲ要スコレ捺印白紙濫用ニ對スルノ保護ニシテ證書ヲ正確ナラシムルノ規則ナリ是等ノ保護ノ規則ヲ定ムルハ其國ノ立法者ニ勝ル者ナシ何者コレ各國人民ノ道義心ノ如何ヲ視テ定ム可キコトナレハナリタルレン曰ク各國證書ノ爲信方式證據ノ力ヲ與フル方式ヲ指スニ付テ各國ソノ法律アリ而シテコノ法律ハ盡ク別々ノ理由ニ基ツクコノ事ニ就テハ立法者ハソノ國民ノ智識道德ヲ觀察シテ一々規定スルモノナリ故ニ證書ノ爲信方式ニ關スル法律ハ總ヘテ各地ニ特別ニシテ且ツ純然タル地方限リノ理由ニ基ツク故ニ證書ヲ作ル地ノ法律ノミ獨リソノ正確ヲ保證シ得ヘキナリト

其地ノ方式ヲ履ミタルトキハ證書ハ當事者ノ意思ノ確實ナル發表ナリト推定

セサレ可夫ス故ニ此証書ハ何處ニ到ルモ證據トナルニ對シトナリ若シ之ニ反
 對ス其地ノ方式ニ合ハサルトキハコノ証書ハ當事者ノ意思ヲ發表シタルモノ
 ト看做ス又得ル故ニ何處ニ到ルモ信ヲ爲ス又得ル是レ場所、方式ヲ支配スト云
 フ法諺ノ意味ナリ、然レテ此証書ハ當事者ノ意思ヲ表現スルモノトシテ其
 前述ノ理由ヨリ依リ証書ハ其公正ナルト私署タルトヲ問ハス之ヲ作ル國ノ
 法律ニ從フ可キト然レトモ當事者ハ必スコノ規則ニ從ハサル可ラサル
 ヤ或ハソノ本國法ニ從スモ勝手ナリセコレ別問題ニシテ種々ノ說アリト雖ト
 モ法例第九條ハ實ニ此問題ニ答スルモノナリ、又ハ當事者ノ意思ハ誠實ニ
 公正証書ニ關シテ殆ト疑ヲ容ルヘキコトニ非ラス必ス証書ヲ作ル國ノ法
 律ニ從ハサル可ラス公正証書ハ當事者ノ作ルモノニ非スシテ公吏ノ手ニ成ル
 モナリ公吏ノ作ルモノハ實ニ非サレハ其証書ハ公正ノ公正タル所以ノ性質
 ヲ具フル能ハス方式ノ正否ニ付キ責任ヲ有スル者ハ公吏ナリ而シテ公吏ハ外
 國法ヲ適用スルノ義務ナキノミナラス外國法ノ定ムル所ニ從テ証書ヲ作ル
 キハコレ公正証書ニ非ス公式証書ノ方式ハ公ノ秩序ヲ守ルニシテ當事者ノ

意思ヲ以テ左右シ得ヘキコトニアラス証書ノ方式ハ其ノ輕重ニ於テ訴訟手續
 ト異ナル所ナシト云フモ過言ニアラサルハ裁判官ハ如何ナル場合ニ於テモ
 外國ノ訴訟手續ニ依リテ得サルナリ、又ハ當事者ノ意思ハ實ニ非サレハ其証書ハ公正ノ公正タル所以ノ性質
 公正証書ニ付テハ此ノ如シ然レトモ私署証書ニ付テハ如何孰レノ國ノ法律ニ
 從フモ當事者ノ自由ナリヤ、然レテ此証書ハ當事者ノ意思ヲ表現スルモノトシテ其
 日本人カ日本ニ於テ作ル証書ハソノ方式日本法ニ合ハサル可ラサルハ勿論ナ
 リ法律ハ証書ノ方式如何ヲ契約ノ規定ニ任セズ即チ當事者ノ意思ニ委セスシ
 テ公益ノ命ス所ニ從フテ之ヲ規定ス故ニ一個人ノ意ニ任セテ左右スルヲ得サ
 ルコトト知ル可シコノ點ニ付テ内外人ノ差別ヲナスヘキニ非ス外國人ハソノ
 屬人法即チ本國法ヲ援用スルヲ得サルナリ何者ソノ本國法ハ証書ノ方式ト些
 少ノ交渉アルコトナシ方式ノ如何ハ全ク地方ノ情況ニ依ルモノナルハロ
 シ氏及ヒタルレンノ說ヲ引テ上既ニ述ヘタルカ如クナリ故ニ証書ノ方式ハ當
 事者ノ意思ニ委スヘキモノニ非ス又ソノ屬人法ニ依ルヘキモノニ非ラス
 ナ地ノ法律ヲ適用スルモノトナリタルレシ又白ク証書ヲ爲信方式ニ付テハ

地ノ法律ヲ探テ他ノ法律ヲ探ラサルハ唯便利上ノ理由ニ依ルモノニ非ラス云ハ、ソノ地ノ法律カ證書ニ生命ヲ與フルナリ故ニコレニ種々ノ規則ヲ設ケツノ方式ヲ規定スル如キモ亦コレノ法律ニ属ス然レトモ反對ノ説ハ却テ多數ヲ占ム其説ニ曰ク場所ハ方式ヲ支配ストノ規則ハ要スルニ一個人ノ爲メニ採用シタルモノナリ而シテ各々ソノ利益ノ爲メニ設ケラレタルコトヲ拋棄スルヲ得ルハ普通ノ原則ナリコレ便益上ノ問題ナリ然レトモ便益ハ必從テ命スルモノニアラス云々イカニモ便益ハ此規則ノ發生ニ與ツテ大ニ力アルコトハ疑ナキコトナリ然レトモ便益ニ基クノ故ヲ以テコレノ規則ニハ從フト否ヤトハ任意ナリト云フヲ得ス民法ニ於テ從否任意ナルハ唯當事者ノ意思ニ委スルノ規則ニ限ル其他ハ然ラス何者立法者ノ此種ノ規則ヲ設クルヤ當事者ノ意思ヲ豫見スルニ過キス故ニ反對ノ意思ヲ表示スルトキハ之ニ敬重セサル可ラス證書ノ方式ニ關スル規則モ同様ナリヤ此間ハ意味ナキモノニ屬ス方式ハ當事者ノ意思ヲ推測豫見シテ設置シタルモノニ非ラサレハナリ立法者ハ一個人カ之ニ循由スヘキコトヲ命令ス其國民ニ就テハ勿論

ナリ外國人ニ就テモ亦タ然リト云フヲ得ヘシ屬人法ハ方法ト何ノ交渉關係モアラサレハナリ

(第八回)

唯便利ノ点ヨリ觀ルモ上ニ論スルガ如クナラザル可カラズ證書ノ方式ヲ任意ナリト云フコレ取リモ直サズ當事者ノ意思ニ一任スルナリ即チ方式ニ就テソノ從フ所ノ法律ヲ撰擇スルヲ得セシムルナリ一人ノ外國人又ハ國籍ヲ同フスル外國人ノ間ニ作ル證書ナレバコレ撰擇モ出來ベキコトナレトモコレ甚タ稀レニ起ルヘキコトナリ内國人カ外國法ニ從テ證書ヲ作ルコトヲ許スヘキヤコレ受取り難キ説ナリ證書ノ證明スル契約執行ノ地又ハ證據トシテ之ヲ用フヘキ地ノ法律ニ從フヲ許ストノ説モアレトモ此ノ主義ヲ採ルトキハ實際ノ面側混雜甚タシ却テ便利ヲ重ンズルノ主意ニ反スツハ地ノ法律ニ從フベキコトヲ命ズルコト尤モ混雜ヲ避クルニ適ス故ニ便利ナリ

此ニ由テ之ヲ觀レハ地方ノ法律ハ必ス方式ヲ支配スルコト法理ニ適ヒ實際ニ於テモ便利ナリ且ツ既ニ述ヘシ如ク吾法例モコレノ主義ヲ採リ第九條第二段ニ

或ル場合ニ於テ外國人カツノ本國法ニ從フヲ許ス或ル場合ニ於テ然リトスレバ其他ノ場合ニ於テハ必ラスツノ場所ノ法律ニ從ハサル可ザルコト、知ル可シ今外國人ガツノ本國法ニ從フヲ得ル場合即ハテ例外ノ場合ヲ舉示セシメテ

内國人ニ關係ナキ場合ニ於テハ當事者ハツノ自由ニ法律ヲ選擇スルヲ得ルハ解スベキコトナリトコトヲ前段ニ述ベタリ一人ニテ證書ヲ作ルトキ又ハ二人以上ニ關係スルモコレ皆同國人ナルトキコトニツノ場合ニ過ギズ一人ニ證書ヲ作ルハ多クハ遺言ノトキナリ又當事者ノ一方ノ意思ヲ發表スルノ行為ヲ證スルノ證書モコノ部類ニ屬ス無効契約追認ノ如キ當事者ノ一方ノ意思ヲ發表ナリ

此例外ノ理由ハ何ニ在リヤ私署證書ニ於テ方式上之ヲ作ル場所ハ肝要ノコトニアラス證書中ニ之ヲ記スルコトモ必要ナラサル程ノコトナリ此場合ニ於テ私署證書ハ外國人ノ本國ニ於テ作リタルモノト看做ス

若シ當事者ハ國民分限ヲ異ニスルトキハ此例外ノ中ニアラス此場合ニ於テハ

當事者孰レハ本國法ヲ適用スベキヤ此ヲ取テ彼ヲ捨ツヘキ謂ハレナシ當事者ノ意思ニ依ルヲ得ス何者證書ノ方式ハ當事者ノ意思ニ一任スベキコトニ非ラズ國籍ヲ同スル者ニヌ本國法ニ從フヲ許シタルハ證書ハツノ本國ニ於テ作リタリト看做セハオレ故ニ當事者國籍ヲ異ニスルトキハ場所ハ方式ヲ支配ストノ通則ヲ適用スベキナリ

外國人カ外國ニ於テ證書ヲ作ルトキ若シコノ證書ハ日本ニ於テ使用スベキモノナレハ其方式ハ日本法律ニ依ルヲ得ヘキヤ

私署證書ニハ一定ノ場所ヲ即チ私署證書ニハ之ヲ作ル場所ハ重要ノ關係ナシ故ニ裁判上ニモイ證書ヲ使用スル場所ノ規則ニ合フトキハ裁判官ハ之ヲ有効ト認識スルヲ得ルナリ

若シ日本法律ノ適用ヲ免ルベシ故ラニ外國ニ到テ證書ヲ作リタルトキハ此證書ハ場所ノ方式ヲ支配スルノ原則ニ從ヒ尙ホ有効トスベキヤ否ト云フ學者多數ヲ占ムルカ如シ然レトモ亦反對ノ說ナキニ非ス其說ニ曰ク當事者ノ内心ヲ吟味スルハ甚ク面倒ノコトナリ吟味スルモノ正確ナルコトヲ知ルハ甚

難シ若シ外國ニ於テ作リタル證書ノ効力ヲ判定スル毎ニ當事者ノ内心ヲ探ラサル可ラサルコトハ混雜ヲ極メ又證書ヲ有スルモ外國ニ於テ作リタルモノニ係ルトキハ決シテ安心スルコト能ハサルナリ有リモセヌ内心ヲ探ラレテ無効トノ判決ノ下ルヤモ計ル可ラサレハナリ折角便益ヲ重シテ採用シタル證書ノ方式ハ場所ノ法律ノ規定ニ從フトノ規則モ半ハ其用ヲ失フニ至ルヘシ云々又或ハ曰ク法律ノ許スコトヲ爲ストキハ惡計ノ有無ヲ問ハス故ニ其ノ地ノ方式ニ從テ作リタル證書ハ何處ニ於テ作リタルヲ問ハス信ヲ爲スヘキナリ云々コレ總ヘテ惡計ヲ以テ爲シタルコトハ無効ナリトノ論斷ニ答フルモノナリ之ニ答フルノ說ニ曰ク此ノ批難ヲ爲ス者ハ爲信方式ノ性質及ヒ場所ハ方式ヲ支配スナル金言ノ條理上ノ根據ニ顧着セサルモノノ如シ抑方式ナルモノハ立法者カ意ニ任セテ勝手ニ規定スルモノニアラス國民ノ道義心風俗ヲ察シ國家ノ公益ヲ思フテ定ムル所ノモノナリ法律ノ精神ヲ問フトキハ日本ニ在ル日本人ハ日本法律ヲ遵奉セサル可ラス若シ其他邦ヲ去ルハ立法者カ人々ヲシテノ意思ヲ充分ニ發示セシムルニ最モ適當ナリト信シテ定メタル方式ヲ免

レンガ爲ノナラバ是レ即チ法ヲ犯スナリ方式ヲ定ムルハ元來詐欺ヲ防クカ爲メナリ然ルニコノ方式ヲ免レンカ爲メ他邦ニ往クコトアラバ惡計ト云ハズシテ何ゾ故ニ惡計ハ總テハ行爲ノ完全ヲ傷クトノ原則ヲ玆ニ適用スベキナリ云云右兩說ノ可否ハ暫ク諸君ノ判斷ニ任ス可シ然レトモ法例ノ探ル所ハ如何法例ハツノ証書ノ証スル所ノ行爲ノ要式ノモノナルト否ラザルトニ依テ區別スルガ如シ要式ノ行爲ニ非ザルトキハ之ヲ証スルノ証書ノ方式ニ就テハ前記第一說ヲ採リタリト考ヘタル其理由ハ要式ノモノニ就テハ第十條ニ明定スルモ第九條ノ通常行爲ニ就テ默過スルハ第十條ノ規定ニ反スルノ規定ヲ採リタリト論斷セザルヲ得ズ即チ通常ノ行爲ニ就テハ之ヲ証スルハ証書ノ方式ハ苟モ之ヲ作ル國ノ法律ニ合フトキハコノ証書ハ常ニ有効ナリ要式行爲ノ方式ハ何レノ國ノ法律ニ從フヘキヤ方式ガ行爲成立ノ要素タルトキハコレ要式ノ行爲ナリ贈與ノ如キ又抵當ノ如キ公正証書ヲ以テ之ヲ証スルニ非レバ行爲ハ成立セザルナリ通常ノ行爲ニ就テハ前舉ノ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フトノ原則ヲ認許スルモノト雖トモ要式ノ行爲ニ就テハツノ方式ハ必ス

當事者ノ本國法ニ從フヲ要スト云フモノアリ、兎モ角議論アル問題ナリ第十條ニ明定スル所以ナリ

前ニ述ブル如ク要式行爲ニ於テハ方式ハ成立ノ要素ナリ行爲就中合意ハ當事者ノ意思ヲ以テ勝手ニ規定スルヲ得ルモノナリト雖モ或ル行爲ニ定リタル方式ヲ履マシムルハ要スルニ公益ノ爲メナリ例ヘハ贈與ノ如キ慈善ノ爲メニスルモノナレハコレ甚タ好ミスヘキコトニシテ法律ハ之ヲ制スルヲ要セサルノミ却テ獎勵スヘキモノナリト云フモ可ナリ、然レトモ奸人ニ欺カレ或ハ痴情ニ迷ヒテ贈與スル如キコト今日往々見ル所ナリ、而シテ正當ノ家族ハ爲メニ大ナル迷惑ヲ蒙ルコトアリ獨リ家族ノミヲノ弊ヲ受クルニ非ス贈與者自ラモ後日大ニ悔フル程ノ困難ニ陥ルコトアリ、故ニ嚴重ナル方式ヲ設ケテ成ルヘク輕舉ヲ豫防センコトヲ要ス斯ノ如キノ事由アルヲ以テ外國ノ方式ニ從ヘハ尙ホ有効トスルノ不可ヲ疑フモノアルナリ然レトモ若シ必ス本國ノ法律ニ從ハシメント欲スルトキハ外國ニ於テハ要式ノ行爲ハ爲スヲ得サルコトアルヘシ、イカニ保護ノ爲メ公益ノ爲メトハ云ヘ、カクテハ餘リ甚シキナリ故ニ要式ノ行爲ト

第三制限

雖トモ之ヲ爲ス國ノ法律ニ從フトキハ方式ハ有効トスルコトニ定メタルナリ行爲ノ効力ニ至テハコレ別問題ナリ、コレ他ノ原則ニ照ラシテ判定ス可キコトナリ、合意ニ就テハ合意ノ規則アリ遺言ニハ遺言ノ規則アリ要スルニ第十條ノ規定ノ廣狹ハ第九條ニ異ナルコトナキナリ第九條モ唯方式ノコトヲ云フモノニシテ第十條モ亦タ然リ

當事者ノ意思ハ法律ハ人ニ追隨ストノ原則ノ第三ノ制限ナリ

內國法ニ於テモ契約ニ就テハ成ルヘク當事者ノ意思ニ任スルヲ常則トス、内外法律抵觸ノ場合ニ於テモ亦タ然リ、故ニ法律ハ人ニ追隨スルコトヲ規則トスルモ若シ當事者ハ反對ノ意思ヲ示ストキハコレニ從フヘキナリ(但シ公益ニ關スルコト及ヒ方式ニ關スル所ノコトハ前述ノ規則ニ從フヘキハ勿論ナリ)人アリ佛國ニ於テ契約ヲナス、而シテ契約ニ關スル規則ハ英國法ニ從フヘキコトヲ明言ス、然ルトキハ此意思ニ從ハサル可ラス一個人カ勝手ニツノ服從スル所ノ法律ヲ定ムルハ一見スルトキハ一個人ノ意思ヲ立法者ノ意思ノ上ニ置クカ如シト雖トモ少シク思慮スルトキハ容易ニ其然ヲサルヲ知ル可シ、法律中契約ニ關

スルノ規則ハ多クハ當事者ノ意思ヲ豫メ推測シテ定ムルモノニシテ要スルニ人々毎事一々詳細ニ契約ヲ以テ規定スルノ煩雜ヲ省カンカ爲ナリ、故ニ法律ニ定ムル所ノ事ト雖モ契約ヲ以テ規定シタリト看做スモ可ナリ此理ヲ了解スルトキハ當事者ノ意思ヲ以テ從フ所ノ法律ヲ撰ムハ毫モ怪ムニ足ラス、便利ノ爲メニ設クルノ規定ハ便利ノ爲メニハ之ニ依ラサルヲ得ル、即チ便利ハ之ヲ強フルヲ得ズトノ原則ニ依ルモ亦タ此ノ如ク決定セザル可ラズ(法例第五條參看)契約ヲ以テ明カニ定メタル場合ニ於テハ疑ヲ容ルベキコトナシ、默示ノ場合ニ於テモ亦タ然リ、然レトモ或ハ當事者ノ意思此点ニ就テ明了ナラザルコトアルベシ、此場合ニ於テハ如何コノ場合ニ於テモ出來ルタケ、當事者ノ意思ヲ探求スルヲ要ス

第一ノ場合、當事者ハ盡ク同國人ニテ而シテ何レノ國ノ法律ニ從フベキヤヲ定メサルトキハ、彼等ハ多分ツノ本國法ニ依ルノ意思ナリト推定スベキナリ、若シ他國ノ法律ニ依ルノ意ナリシナラバ之ヲ明言セシナルベシ

第二ノ場合、當事者若シ其國籍ヲ異ニスルトキハ契約ニ最も關係多キ地ノ法

律ニ從フ、コレ尙ホ當事者ノ意思ハ多分カクアラン實際カクアルベキ筈トノ推定ナリ、契約ノコトニ於テ立法者ガ當事者ノ意思ヲ重ンズルコト以テ見ル可キナリ(第五條第二項參看)

我法例ニ於テハ此ノ如ク明定スト雖トモ、コノ點ニ就テハ歐米實地家及七學者ノ說種々アリ、就中當事者ノ意思分明ナラザルトキハ契約ヲ爲ス地ノ法律ニ從フトノ說最も多數ヲ占ムルガ如シ、吾法例ノ規定スル所ハ當事者ノ意思ヲ重ンズルトノ主意始終貫徹シテ法理ニ合ヒ毫モ批難スベキ所ナキカ如シト雖モ熟々實際ヲ考フルニ縱令ヒ同國人ナリトテ久シク外國ニ在ルトキハ却テ居住スル國ノ法律ニ從フノ意思ナルコト多カルベシ、況ンヤ前段方式ニ關シテ述ヘタル如ク契約ヲ爲スニ當テハ自分ノ一了簡ニテ之ヲナスコト稀レニシテ多クハ代言人、代書人若クハ公證人等ノ如キ所謂黑人ニ依頼スルモノナリ、現ニ是等ノ人ハ外國ノ法律ニ通セサルヲ通常トス故ニ法例第五條第二項ハ或ハ實際ニ合ハザルノ恐ナキカ暫ク疑ヲ存シテ諸君ノ攻究ノ料トス

法例

ト答フルノ外ナシ、遺贈モ人ノ意思ニ表、發ナリ唯契約ニ異ナルノ點二人以上ノ意思ノ合、スルコトナキノミ吾法例ハ明定セザルモ條理上契約ト區別スルノ謂レナシ

以上述ベシ所ヲ約說センニ法律ハ人ニ追隨スルヲ原則トス唯三種ノ例外アリ第一公益ニ關スル法第二方式ニ關スル法第三一個人ノ意思コレナリ吾法例モ亦、此主義ヲ取ルヤ否、ヤ公益ニ關スルノ法ハ人ニ追隨セサルモノアルハ第十四條ニ依テ見ルヘシ第九條以下ヲ見ルトキハ方式ニ關スルコトハ大体右ノ所說ニ合フコトヲ知ルニ足ル、而シテ一個人ノ意思ヲ敬重スルノ主意ハ第五條ニ明ナリ、獨リ法律ハ人ニ追隨スト云フ原則ハ何ノ處ニ之ヲ見ルヤ、コレニ關シテ法例中一般ノ原則ヲ置カス、コレ怪ムニ足ラス法律ハ實事ヲ規定スルモノニシテ空シク原則ヲ示サス、彼此比較照合シテ一定ノ原則ヲ探リ出スハ學者ノ任ナリ、法例ハ其第三條ニ於テ身分能力ノコト及ヒ親屬ノ關係ノコトニ關スル法律ハ人ニ追隨スヘキヲ云フ、其第四條第二項ニ於テ相續遺贈ニ就テモ亦然リ然ルニ第四條第一項ニ云ク動產不動產ハ其所在地ノ法律ニ從フト之ヲ

換言スレハ動產不動產ニ關スル法即チ財產ニ關スル法ハ財產所在地ノ法律ヲ適用スルノ謂ヒナリ財產ニ關スル法トハ如何民法中間接カ直接ニ財產ニ關係ナキノ條項殆ントアルコトナシ、身分能力ニ關スル條項ト雖トモ尙ホ財產ニ關係アリ然ルニ身分能力ハ常ニ當事者ノ本國法ニ依テ支配セラル、モノナリ財產授受ニ關スル法即チ財產取得編ノ條項ノ如キコレ財產ニ關スルノ法ナリトスルモ相續遺贈ノコトニ付テハ第四條第二項ノ明定アリ賣買交換會社等コレ盡ク契約ナリ故ニ契約ニ關スル法ヲ適用スヘキナリ而シテ契約ニ就テハ何レノ國ノ法律ヲ適用スヘキヤ第五條之ヲ明定ス然ラハ第四條第一項ノ目的トスル所ハ何レニ在リヤヲ尋ヌルニ一個人ノ權利ノ目的物タルモノヲ定ムルノ法即チ融通物不融通ノ規定又財產ノ上ニ設置シ得ヘキ權利ノ種類ヲ定ムルノ法トヘハ所有權ヲ許スヘキヤ(コレ奇怪ノ疑問ニ似タレトモ今日社會學派中所ヲ有權ヲ廢スヘキコトヲ主張スルコトアリ)用益權ハ如何地役ハ如何又財產取得ノ方法ニ就テ先占ハ所有權ノ原因トナリ得ヘキヤ(英國ニ於テハ之ヲ許サスト聞ク)相續遺贈ハ如何(社會黨中所有權ヲ認ムルモノト雖トモ相續遺贈ノ許ス可

ラサルヲ主張スルモノ多シ又遺贈ハ自由ナルヘキカ將タ制限ヲ置クヘキカ英國ニ於テ全ク自由ナリ佛國ニ於テハ制限アリ吾新民法ニ於テ亦タ然リ時効ハ如何又擔保ノコトニ於テ不動産質ヲ許スヘキヤ抵當質物ハ債務者ツノ義務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ勝手ニ之ヲ賣拂ヒ又ハ之ヲ自分ノ所有トナスヲ得ルヤ第四條第一項ハ是等ノ問題ニ答フルモノナリ然レトモ此諸問題ハ要スルニ公益ニ關スルコトナリ公益ニ關スル法ノ人ニ追隨セサルコト即チツノ屬地法ナルコトハ第十四條ニ之ヲ明定ス同條ハ獨リ動產不動産ニ關シテ云フニアラズ一般ニ就テ之ヲ規定ス故ニ第四條第一項ハ第十四條ト重用ヲナスモノニシテ之ヲ不用ノ條項ト云フモ可ナルガ如シ

前述ノ余ノ說ヲシテ誤ラザラシメバ内外法律ノ抵觸ヲ解クニ法律隨人ノ原則ニ依ルハ毫モ差支アルコトナシ法例中此原則ヲ示スノ條項アルニ非ザルモ若シコノ原則ノ適用ニ障礙ヲナスノ條項ナキ時ハ、コノ原則ヲ採ツテ可ナリ、カハ原則ヲ見出シテ法律ヲ解釋適用スルハ法律學ニ屬ス、法律ノコトニアラズ法律學者ノ任ニシテ立法者ノ任ニ非サルナリ、試ニ第四條第一項ヲ前ニ述ブル如

ク片付ケ而シテ法律隨人ノ原則ト三個條ノ例外ヲ以テ内外法律ノ抵觸ヲ解ケ實際多少ノ困難ナキニアラサルモ立脚地ノ堅固ナルヲ覺フヤ必セリ、コレ此原則ノ法理ニ合フカ故ナリ

第四條第一項ハ、カク片付クルハ余リニ法文ヲ蔑視スルノ嫌ナキニ非ズ、コレ決シテ輕々シク爲スベキコトニ非ズ況ンヤ淺學寡聞ノ余ノ如キニ於テアヤ然レトモコノ條項ノ不用ナリト信スル所以ハ既ニ述ベタルガ如シ吾新法典ノ解釋尙ホ初歩ナリ諸君ト共ニ不斷研究シテ進マバ或ハ今日ノ所說ノ誤謬ヲ覺知スルコトアラン

以上準則ヲ説キ了レリ以下ツノ應用ヲ示スヘキナレトモ既ニ述ヘタルガ如ク第三條ヨリ第十四條迄ハ所謂ル國際私法ニ屬ス然ルニ國際私法ハ當校講義科目中別ニ一科ヲ爲スヲ以テ茲ニハ其概要ヲ示スヲ以テ足レリト信ス殊ニ學識經驗ニ富メル黒川氏ノ受持チト聞ケバ重複ハ愈々無益ナリ

法例講義 畢

山 鑛			
鑛 種 及	水 理	山 姿	鑛 脉
縣 國 郡	區 村 字	橫 方 位	豎 方 位

西曆年	月	日	大野	丁未	金	銀	題字	精園	金	
丁未	丁未	丁未	丁未	丁未	丁未	丁未	丁未	丁未	丁未	丁未